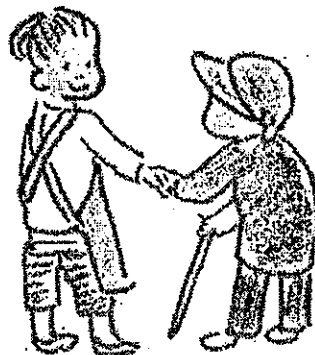
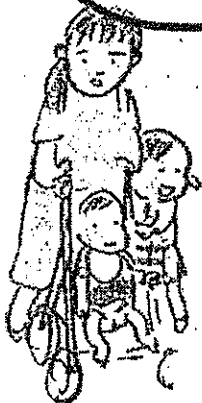


「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」の
実現を目指して

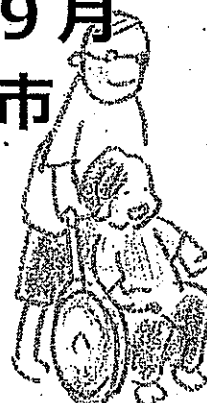
第6次高浜市総合計画

基本計画【中期】の総括

〔平成26年度～29年度〕



平成30年9月
高浜市



第6次高浜市総合計画

中期基本計画〔平成26年度～29年度〕の総括 目次

1. はじめに	
(1) 総括にあたって	4ページ
(2) 中期基本計画の総括の体制	5ページ
(3) 総括の進め方	6ページ
2. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」の結果	
(1) 基本計画の施策に対する「市民意識調査」結果	8ページ
(2) 「みんなで目指すまちづくり指標」一覧	9ページ
3. 中期基本計画の総括	
(1) 総括の見方	13ページ
(2) 総括	
I. みんなで考え みんなで汗かき みんなのまちを創る	
目標(1) まちへの想いを育み、未来を切り開くチカラを高めます	19ページ
目標(2) 将来を見据えた計画的・効果的な財政運営を行います	23ページ
II. 学び合い、力を合わせて、豊かな未来を育む	
目標(3) 人と学びの輪を広げ、まちのチカラを育みます	29ページ
目標(4) 学校・家庭・地域が連携を深め、 12年間の学びや育ちをつなげます	33ページ
目標(5) 地域ぐるみで子育て・子育てを支えます	37ページ
III. 明日を生み出すエネルギー、やる気を活かせるまちをつくる	
目標(6) 産業を活性化して、まちを元気にします	43ページ
目標(7) みんなでまちをきれいにします	49ページ
目標(8) ハーモニーを奏でる快適な都市空間をつくります	53ページ
目標(9) 安全・安心が実感できる地域づくりを進めます	57ページ
IV. いつも笑顔で健やかに、つながり100倍ひろげよう	
目標(10) 一人ひとりを認め合い、 その人らしく暮らせるまちづくりを進めます	63ページ
目標(11) 一人ひとりの元気と健康づくりを応援します	67ページ
目標全般に対する推進会議 コメント	72ページ
4. おわりに	
(1) 中期から後期につなげていくために	74ページ



1

はじめに



1. 中期基本計画の総括にあたって

高浜市では、平成 23 年 4 月から「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」を将来都市像とする「第 6 次高浜市総合計画」がスタートしました。

「中期基本計画」(計画期間：平成 26 年度～29 年度)では、将来都市像の実現に向けて 11 の個別目標(施策)と 44 本の「こんなことに取り組みます!」を掲げ、市民・地域・事業者・関係機関等と力を合わせて、目標達成に向けた取組みを進めてきました。

また、計画の進行管理にあたっては、毎年度の内部評価とともに外部評価として「第 6 次高浜市総合計画推進会議」のチェックの基、目標達成状況の点検・確認(施策評価)を実施し、PDCA サイクルを回してきました。

中期基本計画の計画期間満了に伴い、中期 4 年間の取組みや目標達成状況を検証し、課題や今後の取組みの方向性などを整理する「中期基本計画の総括」を行います。

<行政内部における総括事項>

I. 目標と目標の達成状況
1. 目指す姿と目安となる指標
2. 市民意識調査結果
3. 「みんなで目指すまちづくり指標」の状況
4. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する現状分析 (要因・課題等)
II. 目標達成のための取組み
1. 「こんなことに取り組みます!」の実施内容(いつ・なにを・どうした)
III. 課題と今後の取組みの方向性
1. 中期基本計画から見てきた現状・課題と今後の取組みの方向性
2. 後期基本計画へのつながり

2. 中期基本計画の総括の体制

◎=とりまとめGL

<基本目標Ⅰ>

企画部長 深谷直弘
総務部長 内田徹

目標(1)

◎総合政策GL
人事GL

榊原雅彦
杉浦崇臣

目標(2)

◎財務GL
行政GL
学校経営GL
税務GL
総合政策GL

竹内正夫
中川幸紀
岡島正明
亀井勝彦
榊原雅彦

<基本目標Ⅱ>

教育長 都築公人
こども未来部長 大岡英城

目標(3)

◎文化スポーツGL

鈴木明美

目標(4)

◎教育センターGL
教育センターG主幹

岡島正明
村越茂樹

目標(5)

◎こども育成GL
文化スポーツGL

都築真哉
鈴木明美

<基本目標Ⅲ>

都市政策部長 杉浦義人
市民総合窓口センター長 中村孝徳

目標(6)

◎地域産業GL
企業支援GL

板倉宏幸
島口 靖

目標(7)

◎市民生活GL

芝田啓二

目標(8)

◎都市整備GL
上下水道GL
市民生活GL

田中秀彦
杉浦睦彦
芝田啓二

目標(9)

◎都市防災GL
上下水道GL

神谷義直
杉浦睦彦

<基本目標Ⅳ>

福祉部長 加藤一志

目標(10)

◎地域福祉GL
介護保険・障がいGL
福祉まるごと相談GL
健康推進GL

木村忠好
野口恒夫
野口真樹
磯村和志

目標(11)

◎健康推進GL

磯村和志

3. 総括の進め方

時期	内容
平成30年 3月	<p>3/6 第4回総合計画推進会議 ①これまでの推進会議振り返り及び後期基本計画総括の進め方について ②中期基本計画の総括について など</p>
4月	◇「市民意識調査」「小・中学生アンケート」の実施〔4月上旬～5月中旬〕
5月	
6月	<p>◇「市民意識調査」報告書完成〔6月中旬〕 ◇中期基本計画 内部総括の実施（～7月中旬）</p>
7月	<p>中期基本計画「4年間の総括」（行政内部による総括）完成〔7月中旬〕</p> <p>第6次高浜市総合計画推進会議（第1回）〔7月30日（月）〕 ◇ 中期基本計画「4年間の総括」（行政内部による総括）を公表〔基本目標Ⅰ～Ⅱ〕</p>
8月	<p>第6次高浜市総合計画推進会議（第2回）〔8月21日（火）〕 ◇ 中期基本計画「4年間の総括」（行政内部による総括）を公表〔基本目標Ⅲ～Ⅳ〕</p>
9月	<p>第6次高浜市総合計画推進会議（第3回）〔9月27日（木）〕 ◇ 推進会議委員からの意見を取りまとめた「中期基本計画の総括」の内容を確認 ⇒推進会議から市長へ「中期基本計画の総括」結果を提出</p> <p>「中期基本計画の総括」結果を公表（9月下旬）</p>



2

「市民意識調査」

「みんなで目指すまちづくり指標」

の結果



■ 基本計画の施策に対する「市民意識調査」結果

目標	計画策定時の値 (平成25年)	実績値	実績値	実績値	実績値	動向
		(平成26年)	(平成27年)	(平成28年)	(平成29年)	
(1) まちへの想いを育み、未来を切り開くチカラを高めます	66.4%	64.1%	64.4%	62.2%	58.9%	×
(2) 将来を見据えた計画的・効果的な財政運営を行います	44.5%	45.7%	39.9%	45.1%	41.6%	×
(3) 人と学びの輪を広げ、まちのチカラを育みます	58.9%	58.2%	56.1%	55.2%	51.5%	×
(4) 学校・家庭・地域が連携を深め、12年間の学びや育ちをつなげます	61.5%	61.5%	62.3%	58.8%	58.0%	×
(5) 地域ぐるみで子育て・子育てを支えます	53.3%	55.4%	56.6%	54.0%	52.0%	×
(6) 産業を活性化して、まちを元気にします	26.9%	28.4%	23.9%	21.0%	23.8%	○
(7) みんなでまちをきれいにします	64.1%	67.4%	70.0%	66.2%	64.8%	△
(8) ハーモニーを奏でる快適な都市空間をつくります	45.8%	49.5%	47.4%	44.8%	44.8%	○
(9) 安全・安心が実感できる地域づくりを進めます	56.3%	55.5%	56.8%	57.7%	53.7%	×
(10) 一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます	59.4%	60.8%	62.3%	63.0%	59.6%	△
(11) 一人ひとりの元気と健康づくりを応援します	57.9%	60.4%	67.6%	65.8%	62.3%	△

【動向】

- ◎ = 実績値（平成29年）が計画策定時の値・実績値（平成28年）をともに上回っている。
- = 実績値（平成29年）が計画策定時の値を下回っているが、実績値（平成28年）を上回っている。
- △ = 実績値（平成29年）が計画策定時の値を上回っているが、実績値（平成28年）を下回っている。
- × = 実績値（平成29年）が計画策定時の値・実績値（平成28年）をともに下回っている。

■「みんなで目指すまちづくり指標」一覧

※＝市民意識調査で把握

目標	目標の達成度を計る指標	計画策定時の値 (平成25年)	実績値				動向	目標値 (平成29年)
			(平成26年)	(平成27年)	(平成28年)	(平成29年)		
(1) まちへの想いを育み、未来を切り開くチカラを高めます	いつまでも高浜市に住み続けたいと思っている人の割合※	79.4%	83.3%	82.2%	83.1%	79.6%	▲	85%
	地域活動に参加したことがある人の割合※	56.0%	58.5%	59.2%	62.9%	61.2%	▲	65%
	地域活動に参加している職員の割合	63.1%	62.3%	78.0%	92.1%	92.7%	◎	80%
(2) 将来を見据えた計画的・効果的な財政運営を行います	自主財源の額	100億円	105.7億円	104.3億円	107.2億円	102.7億円	△	105億円
	市の財政状況に関心を持っている人の割合※	68.8%	71.9%	72.0%	73.8%	73.0%	▲	80%
(3) 人と学びの輪を広げ、まちのチカラを育みます	高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合※	72.0%	70.2%	69.9%	71.4%	64.1%	×	76%
	将来の夢を持っている子どもの割合※	81.1%	78.0%	76.9%	76.1%	75.8%	×	85%
(4) 学校・家庭・地域が連携を深め、12年間の学びや育ちをつなげます	学校が好きと感じている子どもの割合※	81.8%	88.4%	88.3%	88.6%	86.6%	○	85%
	学習に積極的に取り組む子どもの割合※ ＊注意	69.4%	76.5%	76.1%	76.3%	75.5%	○	75%
(5) 地域ぐるみで子育て・子育てを支えます	子どもを産み、育てやすいと感じている人の割合※	65.6%	64.6%	64.4%	66.0%	61.3%	×	74%
	子どもとふれあう行事に参加したことのある人の割合※	44.8%	45.3%	48.9%	49.6%	46.3%	▲	51%
(6) 産業を活性化して、まちを元気にします	市内の法人数	898社	922社	894社	919社	919社	▲	930社
	行政がかかわるイベントの来場者数	76,000人	99,000人	96,000人	86,000人	84,000人	▲	100,000人
(7) みんなでまちをきれいにします	1人1日あたりの家庭ごみ排出量	545g	536g	538g	540g	534g	▲	490g
	日ごろから省資源や省エネなど環境に配慮した生活をしている人の割合※	79.9%	80.9%	78.1%	77.9%	76.4%	×	85%
	環境美化推進員の人数	2,900人	4,263人	5,634人	6,799人	6,803人	◎	3,500人
(8) ハーモニーを奏でる快適な都市空間をつくります	暮らしやすい環境が形成されていると感じている人の割合※	66.5%	63.7%	62.7%	60.3%	58.0%	×	72%
	公園・緑地、街路樹や水辺空間づくりに参加したことがある人の割合※	27.0%	24.1%	27.4%	27.0%	29.6%	▲	32%

目標	目標の達成度を計る指標	計画策定時の値 (平成25年)	実績値				動向	目標値 (平成29年)
			(平成26年)	(平成27年)	(平成28年)	(平成29年)		
(9) 安全・安心が実感 できる地域づくりを 進めます	自分自身が災害(地震や風水害 など)への備えができていると 思う人の割合 ※	32.5%	37.6% →	39.0% →	37.3% →	36.9% →	▲	45%
	人口1,000人あたり 犯罪発生件数	12.9件	8.5件 →	7.5件 →	6.9件 →	6.6件 →	◎	>12.0件以下
	人口1,000人あたり 交通事故発生件数	5.0件	4.3件 →	4.1件 →	3.9件 →	4.5件 →	△	4.0件以下
(10) 一人ひとりを認め合 い、その人らしく暮 らせるまちづくりを 進めます	地域福祉に関するボランティ ア活動に参加したことがある 人の割合 ※	17.7%	15.5% →	15.2% →	17.4% →	15.3% →	×	25%
	認知症サポーターの人数	2,843人	4,931人 →	5,654人 →	6,836人 →	7,932人 →	◎	5,600人
	地域包括支援センターを知っ ている人の割合 ※	59.9%	56.0% →	55.9% →	60.2% →	56.3% →	×	70%
(11) 一人ひとりの元気と 健康づくりを 応援します	日常的に運動やスポーツを行 っている人の割合 ※	34.8%	35.4% →	40.6% →	42.2% →	43.4% →	◎	43%
	かかりつけ医を持っている人 の割合 ※	73.5%	73.5% →	76.1% →	78.6% →	74.0% →	▲	80%

★注意 ①あなたは、授業中に手をあげて、発言していますか
②あなたは、授業中に先生や友達の話を聞いていますか
③あなたは、家で宿題以外の勉強をしていますか
の3つの設問において、そう思う(している) +どちらかといえばそう
思う(している)の平均値です。

【指標の動向】

◎=実績値(平成29年)が目標値(平成29年)に達していて、実績値(平成28年)の値を上回っている。

<5指標/26指標>(19.2%)

○=実績値(平成29年)が目標値(平成29年)に達しているが、実績値(平成28年)の値と同じもしくは下回っている。

<2指標/26指標>(7.7%)

△=実績値(平成29年)が目標値(平成29年)には達していないが、実績値(平成26年)もしくは実績値(平成27年)、実績値(平成28年)が目標値(平成29年)に達していた。

<2指標/26指標>(7.7%)

▲=実績値(平成29年)が目標値(平成29年)に達していないが、計画策定時の値を上回っている。

<10指標/26指標>(38.5%)

×=実績値(平成29年)が計画策定時の値と同じ、もしくは下回っている。

<7指標/26指標>(26.9%)

【参考】

設問	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
高浜市のまちづくりのキャッチフレーズ 「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」を知っていますか。	22.4% →	33.6% →	39.9% →	41.4% →	43.4% →	48.0% →	46.7% →



3

中期基本計画 の総括



目標 (1)

まちへの想いを育み、未来を切り開くチカラを高めます



I. 目標と目標の達成状況

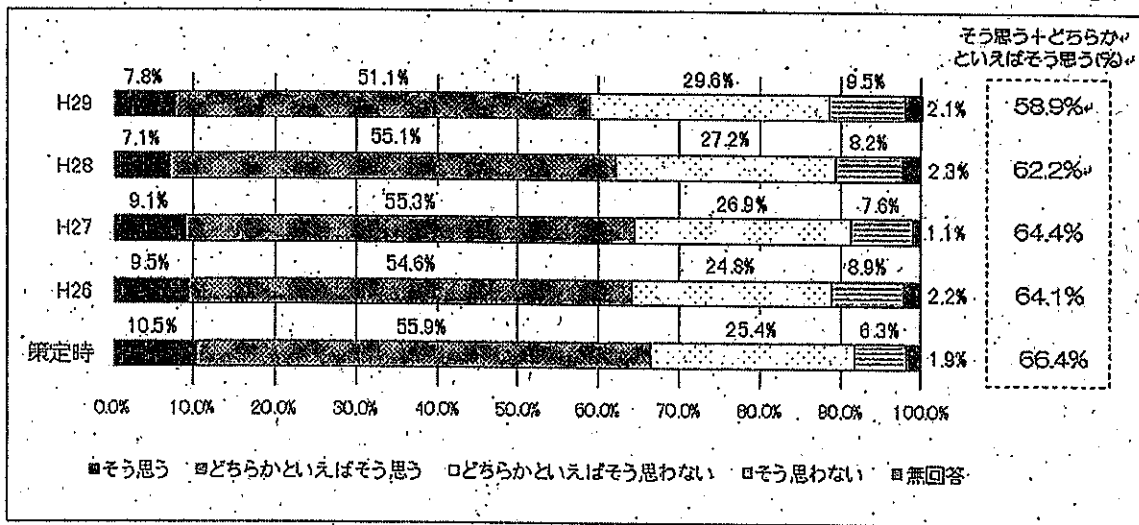
★中期基本計画の内容・市民意識調査結果等を記載する。

1. 目指す姿

目標達成に向けての考え方	「いつまでも住み続けたい！」と思える高浜市を創っていくために、まちの目指す姿を共有し、市民・地域・行政がそれぞれの力を高め、みんなで連携・協力して、未来を切り開くチカラへとつなげていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ まちへの愛着や誇りが高まり、まちのことを「自分のこと」として考えています。 ◇ まちづくりの課題や目標が共有され、一人ひとりが自分にできる行動を起こし、まちづくりの輪が広がっています。 ◇ 高浜市で暮らす日常の「心地よさ」を実感する人が増え、まちに笑顔があふれています。 職員は、市民や地域の想いに寄り添いながら、職員力を磨き、課題の解決に向けて積極的に行動しています。

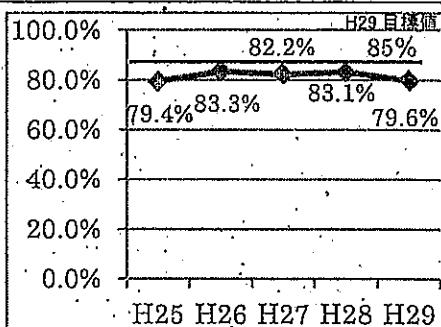
2. 市民意識調査結果

【設問】まちを愛する想いが生まれ、市民みんなが連携・協力して、まちづくりを行っているまちだと思う

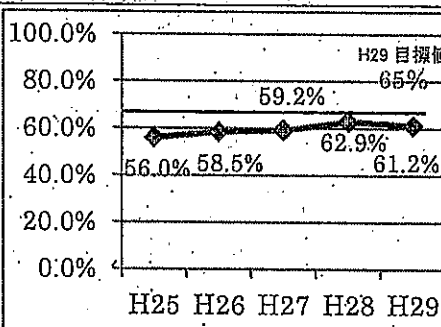


3. 「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

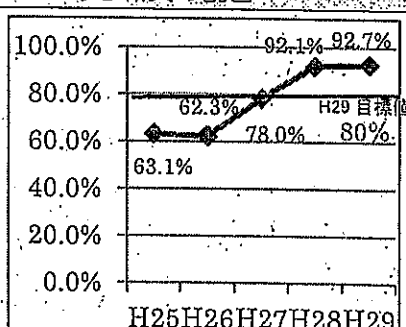
1) いつまでも高浜市に住み続けたいと思っている人の割合



2) 地域活動に参加したことがある人の割合



3) 地域活動に参加したことがある職員の割合



【総括シートの見方】

4. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する現状分析（要因・課題等）

- ・「市民意識調査」は中期計画策定時より7.5%低下している。「みんなで目指すまちづくり指標」1)～3)については、1)は横ばい。2)は5.2%の上昇。3)は29.6%の上昇となっており、3)については目標値も達成できた。
 - ・「みんな動へ」★「指標の状況」や「市民意識調査結果」を踏まえ、指標（目標）が達成できた要因・達成できなかった要因といった分析内容を記述する。
- （担い手）が不足しているといったまちづくりの現状が反映されていると感じています。地域活動への参加の機会を増やし、参加を促すだけでは、まちへの愛着の向上や市民みんなが連携・協力したまちづくりにはつながっていかないと分析できます。地域活動への参加意識が高まってきている中、参加者側から参加者（担い手）側になっていただけるような仕掛けが、いつまでも住み続けたい高浜をみんなで連携・協力していくには、必要不可欠であります。

II. 目標達成のための主な取組み（「こんなことに取り組みます！」の実施内容）

（1）市民と行政がお互いにコミュニケーションをとり、市政運営やまちづくりに関する情報発信・情報交換を活発に行います。

該当アクションプラン H26～H29 情報発信/パワーアップ事業

何を・どうした		いつ
平成26年度	①部局ごとの重点事業を公表するパンフレット「〇〇部長の実行宣言」を作成し、各まちづくり協議会で周知するとともに、公共施設に設置した。	H26.7
	②市公式フェイスブック	H26.9
	③「自分自身が動くこと」	H26.12
平成27年度	①ホームページのトップ	H27.10
	②市政情報を手軽に入手した。	H28.1
平成28年度	①広報発行により市政を	H28.4～
	②市政記者への情報提供	H28.4～
	③ホームページに翻訳機能を追加した。	H28.4
平成29年度	①「〇〇部長の実行宣言」平成29年度版を作成・公表した。	H29.4
	②市公式ホームページ	H29.9
	③広報担当者会議を臨時に開催し、FBの積極的活用とホームページの運用状況を検証した。	H30.1

（2）市民・地域・行政がそれぞれの得意分野を活かし、ともにまちづくりに取り組んでいくための環境づくりを進めます。

該当アクションプラン H26～H29 みんなでまちづくり事業、まちづくり応援事業

何を・どうした		いつ
平成26年度	①まちづくり協議会の要件を明確化するために「高浜市まちづくり協議会条例」を策定した。	H26.4～
	②市民・地域と市職員のつながりをテーマとした「たがはま大家族フォーラム」を開催した。	H26.11
	③「自治基本条例子ども向け副読本」を活用し、地域との協働により小学6年生を対象に「出前授業」を実施した。	H26.6～

【総括シートの見方】 みんなで汗かき みんなのまちを創ろう

平成27年度	①まち協サミットにおいて、交付金制度の見直しを協議した。	H27.6～
	②まちづくり協議会特派員が中心となり、地域計画の見直しを支援した。	H27.6～
	③自治基本条例検証委員会を開催し、検証報告書を完成させ、市長へ提出した。	H27.5～
平成28年度	①若手職員成長支援研修において、新人職員を対象に「参画・協働・情報共有のガイドライン」や自治基本条例の概要について説明を行った。	H28.8
	②市民活動情報を特にフェイスブックを使って積極的に発信し、まちづくり活動の成果や意義を伝えた。	H28.4～
平成29年度	①市民予算枠事業交付金（地域内分権推進型）を一括交付金化した。（地域一括交付型）	H29.4～
	②小学6年生を対象に、 ★平成29年度を振り返り記載★ 港小学校の2校で実施するとともに、 ★平成29年度を振り返り記載★ した。	H29.10・11
	③より多くの方が活用できるよう地域カルテをオープンデータ化した。	H29.11
(3) “大家族”のみんなが幸せな生活を送ることができるよう、高浜市で暮らす日常の「心地よさ」を高める取組みを進めます。		
該当アクションプラン H26～H29 アシタのたかはま研究事業		
何を・どうした		いつ
平成26年度	①自治体内シンクタンク「アシタのたかはま研究所」を設置した。	H26.4
	②20年後の高浜市や行政サービスのあり方などを見据え、各種の政策データの収集・分析、政策課題の洗い出しなどの調査・研究を行った。	H26.4～
	③「しあわせづくり計画」を市民とともに策定するための準備を進めた。（例：職員を対象とした政策形成能力・課題解決能力向上のためのワークショップ）	H26.7～
平成27年度	①しあわせづくりフォーラムを開催した。	H28.3
	②しあわせづくり計画（本編及び別冊）を策定した。	H28.3
	③高浜市人口ビジョン及び高浜版総合戦略を策定した。	H28.3
平成28年度	①しあわせづくり計画実践プロジェクト（職員版）をスタートし、実践を行った。	H28.5～
	②高浜市まちづくり研究センターと連携しざっくばらんなカフェをスタートした。	H28.6
	③人工知能を活用した子育て情報問合せサービスの実証実験に参加し、人工知能の行政サービスへの活用の可能性について検討した。	H28.8
平成29年度	①高浜市まちづくり研究センターと連携し「ざっくばらんなカフェ」を計6回開催した。	H29.4～
	②行政サービスに ★平成29年度を振り返り記載★ 型連携協定を締結し、検討体制を整えた。	H29.11
(4) 現場を第一に考え、問題意識を持って課題に積極的に取り組むため、職員力を高めます。		
該当アクションプラン H26～H29 職員カステップアップ事業		
何を・どうした		いつ
平成26年度	①民間企業へ職員を派遣し、習得した業務改善手法を全庁展開した。	H26.4～
	②内部研修として、中堅・若手を対象とした「たかはま地域経営実践塾」や新人職員を対象とした「若手職員成長支援研修」を実施した。	H26.4～
平成27年度	①若手職員成長支援研修（やってみよMyプロジェクト）を開催した。	H27.4～
	②第3期たかはま地域経営実践塾（塾長：大杉覚氏）を開講した。	H27.5～
	③全庁的な2S活動・標準化活動を実施した。	H27.6～
平成28年度	①若手職員成長支援研修を実施した。	H28.4～
	②地域リーダー養成塾へ職員を派遣した。	H28.5～
	③「若手・中堅職員による職員のための職員研修」実施に向けての検討を行った。	H28.4～

【総括シートの見方】

平成29年度	①若手職員成長支援研修を実施した。	H29.4～
	②組織全体のマネ：★平成29年度を振り返り記載★ 多」を実施した。	H30.2
	③女性職員の管理職養成研修への派遣や女性活躍推進研修を実施した。	H29.10～

Ⅲ. 課題と今後の取組みの方向性

課題	今後の取組みの方向性
<p>(1) 情報発信の積極的展開</p> <p>あらゆる手段での情報提供の積極的展開の必要性が必要である。</p>	<p>広報紙面の効率的な活用や各グループのホームページの充実、フェイスブックの活用度を高めるなど、今ある媒体の有効的な活用方法を見出していくことはもちろん、新たな媒体の発掘や情報発信系のもののあり方を考えるなど、根本的な改革を行う</p>
<p>(2) 地域活動に「地域活動に</p> <p>いるが、地域活動の運営側（担い手）が不足しており、このままでは活動の継続性が将来的には困難になる。</p>	<p>☆中期4年間の取組みから見えてきた課題や新たな課題を上げ、後期（H30～H33）において、どのように課題解決に取り組んでいこうと考えているのか、取組みの方向性を記述</p> <p>担い手として、既存の地域活動の運営にかかる負荷が少なくなるような仕組みづくりにについても検討していく。</p>
<p>(3) 「若手・中堅職員」の成長支援と「仕事」の効率化により職員力を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後5年間で、現任の部長職が全員退職するなど、さらに職員の若年化が進む。 ・国において働き方改革に関する議論が進行する中、今後、時間外勤務の削減等、公務員の労働にも大きな変化が生じてくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「若手・中堅職員による職員のための職員研修」をはじめとした研修をとおして、入庁後から地域活動を自分ごととして考える機会を設け、“きっかけづくり”から“課題発見・解決”まで各階層に応じた内容を企画・検討していく。 ・時間外勤務の多い部署については業務を抜本的に見直すほか、職員一人ひとりが「仕事」の見直し、効率化を図るとともに、職場全体で職員のワークライフバランスを考えた「働き方」に改革していく。



後期基本計画「目標（1）まちへの想いを育み、いつまでも住み続けたいと思えるまちをつくります」へのつながり	
こんなことに取り組みます！	平成30年度アクションプラン
市民と行政がお互いの考えを理解できるよう、積極的な情報発信を行うとともに、対話の場を作ります。	No.1 情報発信パワーアップ事業〔総合政策G〕
市民・地域・行政が得意分野を活かし、それぞれの力を結集し、みんなでまちづくり事業	No.2 みんなでまちづくり事業
★中期での課題等が後期基本計画の目標やアクションプランに該当しているかを記載していくための環境づくりを進めます。	
職員のワークライフバランスを考えた「働き方」改革と、職員が地域に関わる“きっかけづくり”から“課題発見・解決”まで段階に応じた成長支援を行います。	No.3 職員カステップアップ事業

Ⅳ. 第6次高浜市総合計画推進会議 コメント

★平成30年度第1回・2回推進会議においていただいた、中期4年間（H26～H29）の取組みや目標達成状況を踏まえた感想や想い（例：よかった点、改善すべき課題）、今後の取組みにつながるアイデアなどご意見をとりまとめる。

MEMO



基本目標

1



目標(1)

まちへの想いを育み、未来を切り開くチカラを高めます



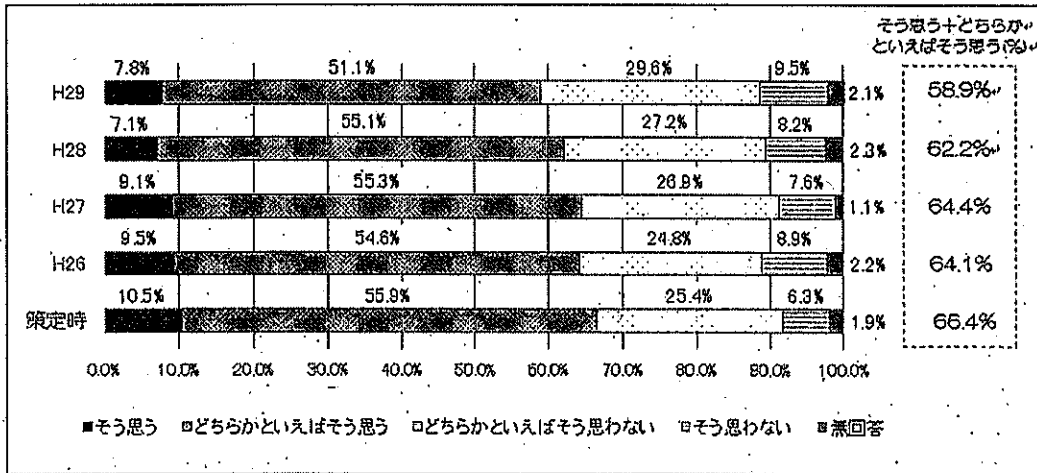
▲まちづくり出前授業

I. 目標と目標の達成状況

1. 目指す姿	
目標達成に向けての考え方	「いつまでも住み続けたい!」と思える高浜市を創っていくために、まちの目指す姿を共有し、市民・地域・行政がそれぞれの力を高め、みんなで連携・協力して、未来を切り開くチカラへとつなげていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ まちへの愛着や誇りが高まり、まちのことを「自分のこと」として考えています。 ◇ まちづくりの課題や目標が共有され、一人ひとりが自分のできる行動を起こし、まちづくりの輪が広がっています。 ◇ 高浜市で暮らす日常の「心地よさ」を実感する人が増え、まちに笑顔があふれています。職員は、市民や地域の想いに寄り添いながら、職員力を磨き、課題の解決に向けて積極的に行動しています。

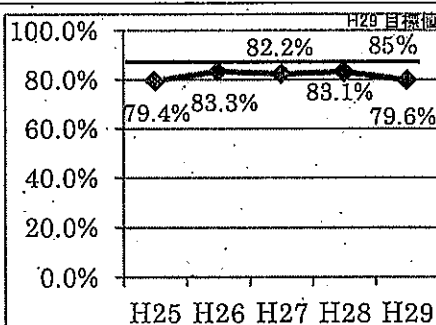
2. 市民意識調査結果

【設問】まちを愛する想いが育まれ、市民みんなが連携・協力して、まちづくりを行っているまちだと思う。

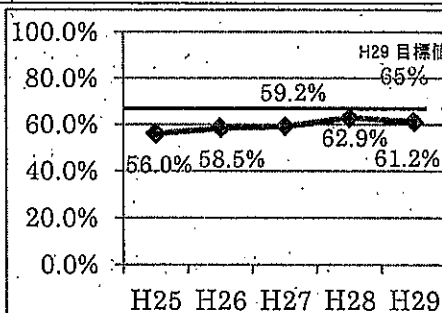


3. 「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

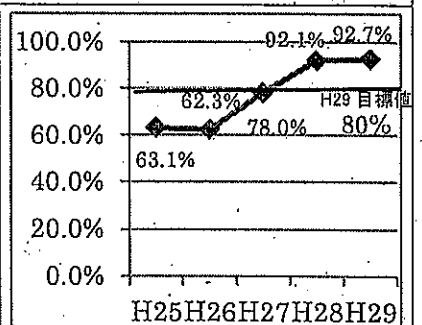
1) いつまでも高浜市に住み続けたいと思っている人の割合



2) 地域活動に参加したことがある人の割合



3) 地域活動に参加したことがある職員の割合



4. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する現状分析(要因・課題等)

- ・「市民意識調査」は中期計画策定時より7.5%低下している。「みんなで目指すまちづくり指標」1)～3)については、1)は横ばい。2)は5.2%の上昇。3)は29.6%の上昇となっており、3)については目標値も達成できた。
- ・「みんなで目指すまちづくり指標」2)においては、中期計画策定時と比べ、すべての世代において地域活動への参加率は上昇しているが、「市民意識調査」結果においては中期計画策定時と比べ、20代で15.5%、40代で10.7%、50代で14.6%の低下となっており、これは地域活動への参加者は増えたが、参画者(担い手)が不足しているといったまちづくりの現状が反映されていると感じています。地域活動への参加の機会を増やし、参加を促すだけでは、まちへの愛着の向上や市民みんなが連携・協力したまちづくりにはつながっていかないと分析できる。地域活動への参加意識が高まってきている中、参加者側から参画者(担い手)側になっていただけるような仕掛けが、いつまでも住み続けたい高浜をみんなで連携・協力していくには、必要不可欠である。

II. 目標達成のための主な取組み(「こんなことに取り組みます!」の実施内容)

(1) 市民と行政がお互いにコミュニケーションをとり、市政運営やまちづくりに関する情報発信・情報交換を活発に行います。		
該当アクションプラン H26～H29 情報発信パワーアップ事業		
	何を・どうした	いつ
平成26年度	①部局ごとの重点事業を公表するパンフレット「〇〇部長の実行宣言」を作成し、各まちづくり協議会で周知するとともに、公共施設に設置した。	H26.7
	②市公式フェイスブックを立ち上げた。	H26.9
	③「自分自身が動くことがしあわせ」をテーマとした別冊「広報たかはま」新春特別号を発行した。	H26.12
平成27年度	①ホームページのトップページリニューアルを行った。	H27.10
	②市政情報を手軽に入手することができるように、広報1/1号より「i広報紙」の配信を開始した。	H28.1
平成28年度	①広報発行により市政やまちの情報を提供し、各所管と協議しながら重要なお知らせを特集して紹介した。	H28.4～
	②市政記者への情報提供や、近隣市広報との連携で市外への情報発信を行った。	H28.4～
	③ホームページに翻訳機能を追加した。	H28.4
平成29年度	①「〇〇部長の実行宣言」平成29年度版を作成・公表した。	H29.4
	②市公式ホームページ内「市長室へようこそ」をリニューアルし、市長の公務や表敬訪問の写真、主な記者発表資料の掲出を行うようにして、FBの活用とともに即時的な公表につとめた。	H29.9
	③広報担当者会議を臨時に開催し、FBの積極的活用とホームページの運用状況を検証した。	H30.1
(2) 市民・地域・行政がそれぞれの得意分野を活かし、ともにまちづくりに取り組んでいくための環境づくりを進めます。		
該当アクションプラン H26～H29 みんなでまちづくり事業、まちづくり応援事業		
	何を・どうした	いつ
平成26年度	①まちづくり協議会の要件を明確化するために「高浜市まちづくり協議会条例」を策定した。	H26.4～
	②市民・地域と市職員のつながりをテーマとした「たかはま大家族フォーラム」を開催した。	H26.11
	③「自治基本条例子ども向け副読本」を活用し、地域との協働により小学6年生を対象に「出前授業」を実施した。	H26.6～

基本目標Ⅰ みんなで考え みんなで汗かき みんなのまちを創ろう

平成27年度	①まち協サミットにおいて、交付金制度の見直しを協議した。	H27.6～
	②まちづくり協議会特派員が中心となり、地域計画の見直しを支援した。	H27.6～
	③自治基本条例検証委員会を開催し、検証報告書を完成させ、市長へ提出した。	H27.5～
平成28年度	①若手職員成長支援研修において、新人職員を対象に「参画・協働・情報共有のガイドライン」や自治基本条例の概要について説明を行った。	H28.8
	②市民活動情報を特にフェイスブックを使って積極的に発信し、まちづくり活動の成果や意義を伝えた。	H28.4～
平成29年度	①市民予算枠事業交付金（地域内分権推進型）を一括交付金化した。（地域一括交付型）	H29.4～
	②小学6年生を対象にした「出前授業」を希望制とし、高浜小学校・港小学校の2校で実施するとともに、高浜カリキュラムへの連動について検討・調整した。	H29.10・11
	③より多くの方が活用できるよう地域カルテをオープンデータ化した。	H29.11
<p>(3) “大家族”のみんなが幸せな生活を送ることができるよう、高浜市で暮らす日常の「心地よさ」を高める取組みを進めます。</p>		
<p>該当アクションプラン H26～H29 アシタのたかはま研究事業</p>		
何を・どうした		いつ
平成26年度	①自治体内シンクタンク「アシタのたかはま研究所」を設置した。	H26.4
	②20年後の高浜市や行政サービスのあり方などを見据え、各種の政策データの収集・分析、政策課題の洗い出しなどの調査・研究を行った。	H26.4～
	③「しあわせづくり計画」を市民とともに策定するための準備を進めた。（例：職員を対象とした政策形成能力・課題解決能力向上のためのワークショップ）	H26.7～
平成27年度	①しあわせづくりフォーラムを開催した。	H28.3
	②しあわせづくり計画（本編及び別冊）を策定した。	H28.3
	③高浜市人口ビジョン及び高浜版総合戦略を策定した。	H28.3
平成28年度	①しあわせづくり計画実践プロジェクト（職員版）をスタートし、実践を行った。	H28.5～
	②高浜市まちづくり研究センターと連携しざっくばらんなカフェをスタートした。	H28.6
	③人工知能を活用した子育て情報問合せサービスの実証実験に参加し、人工知能の行政サービスへの活用の可能性について検討した。	H28.8
平成29年度	①高浜市まちづくり研究センターと連携し「ざっくばらんなカフェ」を計6回開催した。	H29.4～
	②行政サービスにICTを活用するため、ソフトバンク㈱と地域包括連携協定を締結し、検討体制を整えた。	H29.11
<p>(4) 現場を第一に考え、問題意識を持って課題に積極的に取り組むため、職員力を高めます。</p>		
<p>該当アクションプラン H26～H29 職員カステップアップ事業</p>		
何を・どうした		いつ
平成26年度	①民間企業へ職員を派遣し、習得した業務改善手法を全庁展開した。	H26.4～
	②内部研修として、中堅・若手を対象とした「たかはま地域経営実践塾」や新人職員を対象とした「若手職員成長支援研修」を実施した。	H26.4～
平成27年度	①若手職員成長支援研修（やってみよMyプロジェクト）を開催した。	H27.4～
	②第3期たかはま地域経営実践塾（塾長：大杉寛氏）を開講した。	H27.5～
	③全庁的な2S活動・標準化活動を実施した。	H27.6～
平成28年度	①若手職員成長支援研修を実施した。	H28.4～
	②地域リーダー養成塾へ職員を派遣した。	H28.5～
	③「若手・中堅職員による職員のための職員研修」実施に向けての検討を行った。	H28.4～

平成29年度	①若手職員成長支援研修を実施した。	H29.4～
	②組織全体のマネジメント力の強化に向けた「管理職リーダー研修」を実施した。	H30.2
	③女性職員の管理職養成研修への派遣や女性活躍推進研修を実施した。	H29.10～

Ⅲ. 課題と今後の取組みの方向性

課題	今後の取組みの方向性
<p>(1) 情報の発信が積極的に展開できていない</p> <p>あらゆる手段での情報提供の積極的展開の必要性が必要である。</p>	<p>広報紙面の効率的な活用や各グループのホームページの充実、フェイスブックの活用度を高めるなど、今ある媒体の有効的な活用方法を見出していくことはもちろん、新たな媒体の発掘や、情報発信そのもののあり方を考えるなど、抜本的な改革を行っていく。</p>
<p>(2) 地域デビューの「きっかけ」がない</p> <p>「地域活動に参加したことがある」という市民は増えてきているが、地域活動の運営側（担い手）が不足しており、このままでは活動の継続性が将来的には困難になる。</p>	<p>若い世代・定年を迎える世代に対して、地域活動の担い手として関わっていただけるようなきっかけを創出していく。また、既存の地域活動の運営にかかる負荷が少なくなるような仕組みづくりについても検討していく。</p>
<p>(3) 「若手・中堅職員」の成長支援と「仕事」の効率化により職員力を高める必要がある</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後5年間で、現任の部長職が全員退職するなど、さらに職員の若年化が進む。 国において働き方改革に関する議論が進行する中、今後、時間外勤務の削減等、公務員の労働にも大きな変化が生じてくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「若手・中堅職員による職員のための職員研修」をはじめとした研修をとおして、入庁後から地域活動を自分ごととして考える機会を設け、“きっかけづくり”から“課題発見・解決”まで各階層に応じた内容を企画・検討していく。 時間外勤務の多い部署については業務を抜本的に見直すほか、職員一人ひとりが「仕事」の見直し、効率化を図るとともに、職場全体で職員のワークライフバランスを考えた「働き方」に改革していく。



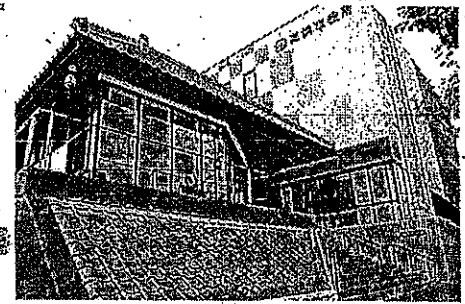
後期基本計画「目標（1）まちへの想いを育み、いつまでも住み続けたいと思えるまちをつくります」へのつながり	
こんなことに取り組みます！	平成30年度アクションプラン
市民と行政がお互いの考えを理解できるよう、積極的な情報発信を行うとともに、対話の場を作ります。	No.1 情報発信パワーアップ事業〔総合政策G〕
市民・地域・行政が得意分野を活かし、それぞれのステージで自分たちのできる“まちづくり”に取り組んでいくための環境づくりを進めます。	No.2 みんなでまちづくり事業〔総合政策G〕
職員のワークライフバランスを考えた「働き方」改革と、職員が地域に関わる“きっかけづくり”から“課題発見・解決”まで段階に応じた成長支援を行います。	No.3 職員カステップアップ事業〔人事G〕

Ⅳ. 第6次高浜市総合計画推進会議 コメント

<ul style="list-style-type: none"> 地域活動を運営する側の担い手不足という話があるが、課題解決のために市の職員が果たす役割は重要であると感じている。 自治基本条例出前授業が希望制になったが、将来的にどの学校も出前授業を行わなくなる可能性があることに、少し不安がある。
--

目標(2)

将来を見据えた計画的・効果的な財政運営を行います



▲市役所庁舎と会議棟

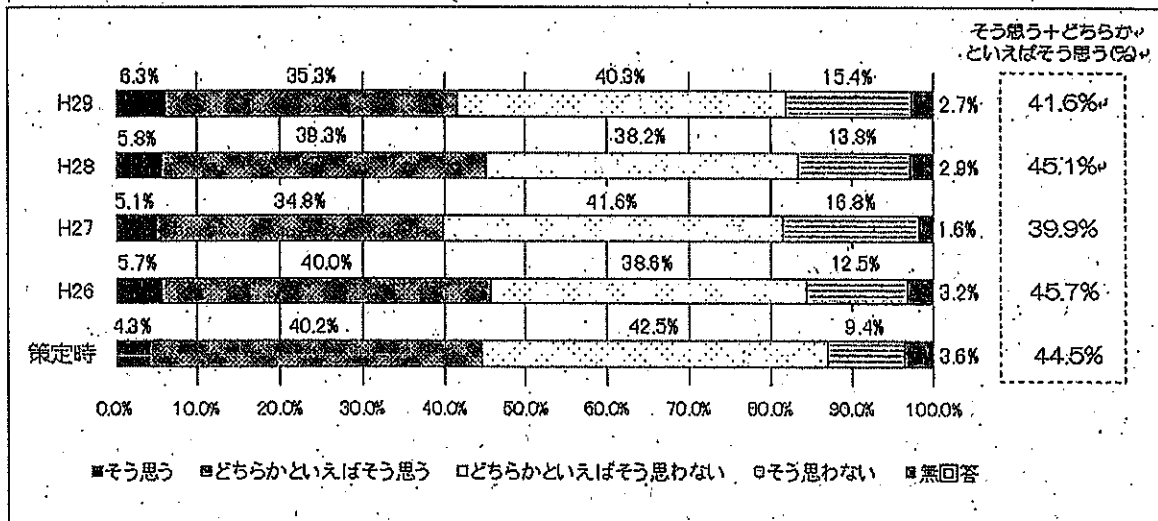
I. 目標と目標の達成状況

1. 目指す姿

目標達成に向けての考え方	歳入の大幅な増加が見込めないなか、行政サービスを着実に実施していくため、中長期的な視点に立ち、公共施設のあり方など将来にわたる課題に、計画的に取り組むとともに、より効果的な財政運営を行っていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 市税などの自主財源が安定的に確保され、計画的な財政運営が行われています。 ◇ 将来的な公共施設のあり方について、市民の関心が高まっています。 ◇ 市の財政状況に対する市民の理解が深まっています。 ◇ 市民ニーズをふまえ、効率的かつ効果的に行政サービスが提供されています。

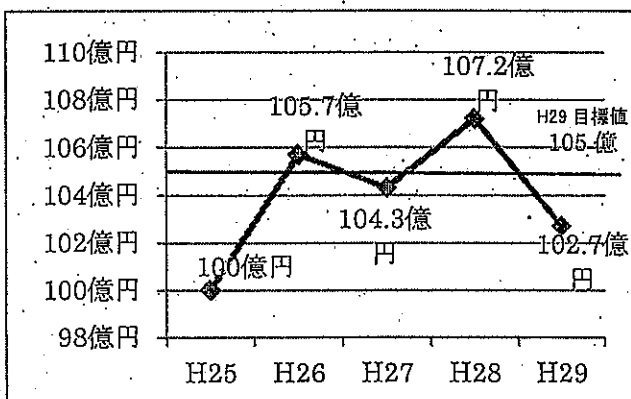
2. 市民意識調査結果

【設問】 将来を見据え、計画的で効果的な財政運営が行われているまちだと思う。

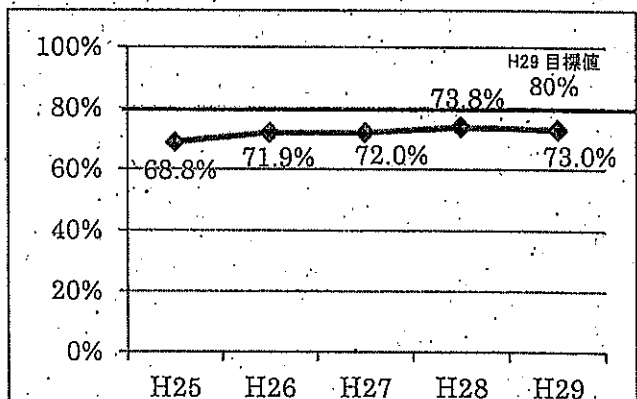


3. 「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

1) 自主財源の額



2) 市の財政状況に関心を持っている人の割合



4. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する現状分析（要因・課題等）

- 市民意識調査「将来を見据えた計画的・効果的な財政運営を行います」41.6%（前年度比▲3.5%）
 - ・調査結果については、年度ごとにはばらつきがある。50歳代を除いたすべての年代が減少となった。そうした中でも、「そう思う」という方は6.3%（前年度比+0.5）に増えている。
 - ・将来を見据えた財政運営を行っている状況をどのように伝えていくのか。発信の内容や仕方などを市民の視点を加えて検討していく必要がある。
- 指標1「自主財源の額」102.7億円（前年度比▲4.5億円 目標値比▲2.3億円）
 - ・個人市民税及び固定資産税で前年度比約1.6億円増加する一方で、法人市民税では、28年度に特別な要因で一時的に発生した特別利益が皆無（▲約8億円）となったことが主な要因である。
 - ・引き続き、市税等の徴収率向上や新たな工業用地の創出に向けた取組みを進めるとともに、施設使用料の見直しなど新たな取組みを進める必要がある。
- 指標2「市の財政状況に関心を持っている人の割合」73.0%（前年度比▲0.8% 目標値比▲7.0%）
 - ・25年度の調査以降、年々上昇してきたが、はじめて微減となった。
 - ・50歳代以降の関心が低くなる一方、10歳代から40歳代の若い世代の関心は高まっている。中でも、10歳代は前年度比36.9ポイントのプラスと大きく上昇している。継続的にわかりやすい財政情報の発信に取り組んできた成果と捉えている。

II. 目標達成のための主な取組み（「こんなことに取り組みます！」の実施内容）

（1）市税収入など、自主財源の確保に努めます。

該当アクションプラン H26～H29 【No.6】受益者負担適正化事業（使用料・手数料の見直し）
【No.7】市税等徴収事業

何を・どうした		いつ
平成26年度	①愛知県西三河地方税滞納整理機構と協働し、滞納解消に努めた。	H26.5～ H27.2
	②公共施設の使用料改定額の試算を行った。	H26.9～ H27.2
	③「使用料・手数料見直し（改定）」に係る基本方針（中間素案）ほか、プロジェクトの活動報告を部長会で行った。	H27.3
平成27年度	①愛知県西三河地方税滞納整理機構・愛知県名古屋東部県税事務所と連携し、滞納整理を実施した。	H27.4～
	②使用料・手数料見直し（案）に係る基本方針（案）及び試算額を取りまとめた。	H27.8・10
平成28年度	①受益者負担の考え方において、新公会計の視点により、他市事例を踏まえ、フルコスト方式に変更することを検討した。	H28.6
	②新公会計導入にかかるシステムを選定し、予算を計上した。	H28.6
	③新公会計システムの売買契約を締結した。	H28.9
	④新公会計システムによる財務四表を作成した。	H29.3
	⑤愛知県西三河地方税滞納整理機構・愛知県名古屋東部県税事務所と連携し、滞納整理を実施した。	H28.4～
	⑥実態調査・財産調査・差押えの強化を図った。	H28.4～
平成29年度	①愛知県西三河地方税滞納整理機構・愛知県名古屋東部県税事務所と連携し、滞納整理を実施した。	H29.4～
	②職員の滞納整理業務をスキルアップするため、徴収指導員（国税OB）を採用した。	H29.8
	③新公会計制度に基づき、施設別行政コスト計算書の作成に着手した。	H30.1～
	④「公共施設使用料の見直しに関する基本方針（案）」を策定した。	H30.3

基本目標Ⅰ みんなで考え みんなで汗かき みんなのまちを創ろう

(2) 限られた財源を重点的、効果的に配分するとともに、継続して行政サービスが提供できるよう、既存サービスの見直しに取り組みます。		
該当アクションプラン H26～H29【No.8】行政サービス点検事業		
何を・どうした		いつ
平成26年度	①他市とのサービス水準比較をするためアンケート調査項目(案)の抽出(ex.1,000項目)を行った。	H26.4～8
	②今後20年間を見据えた財政負担の見直しと財源確保の目標を提示する「長期財政計画」の作成について検討しその中で行政サービスのあり方を検討することとした。	H27.3
平成27年度	①行政サービスあり方検討部会を設置し、事業費見直し計画(案)の検討及び作成に着手した。	H27.5
	②「事業費見直し計画」を含む「長期財政計画」を公表した。	H28.3
平成28年度	①不交付団体となったことから、財源の手当て策を検討した。	H28.8
	②「長期財政計画」を検証し、修正項目の洗出しを行った。	H28.8
	③サマーレビューを実施した。	H28.8
	④予算編成方針に財源手当て(経常経費削減1億円)を明記した。	H28.9
	⑤長期財政計画(改訂版)を公表した。	H29.3
平成29年度	①サマーレビューを実施し、その結果に基づいた平成30年度当初予算の編成を実施した。	H29.7～H30.2
	②長期財政計画(改訂版)を公表した。	H30.3
(3) 将来の公共施設のあり方について、市民とともに問題意識を共有しながら、具体的な検討を進めます。		
該当アクションプラン H26～H29【No.9】公共施設あり方計画推進事業、公共施設等適正化事業、公共施設総合管理計画推進事業 H26～H29【No.10】市庁舎あり方公募事業、市役所本庁舎整備事業 H26～H29【No.11】高浜小学校整備事業		
何を・どうした		いつ
平成26年度	①公共施設あり方計画(案)を作成し、市としての方針をまとめた。	～H26.6
	②高浜小学校整備事業において、市民を交えたワークショップを開催し、情報共有及び提供サービスについて検討した。	H26.10～ H27.3
	③市役所本庁舎整備事業において、事業者と基本協定及び事業契約を締結した。	H27.3
平成27年度	①市役所本庁舎建設に着手した。	H27.11
	②高浜小学校等整備事業に係る基本計画・実施方針(案)募集要項(案)等を公表した。	H28.2・3
	③インフラ資産検討部会を設置し、インフラ長寿命化方針を取りまとめ、公共施設総合管理計画を策定した。	H28.3
平成28年度	①公共施設総合管理計画推進本部会議及び検討部会を開催した。	H28.4～
	②公共施設のあり方に関する個別の説明を実施した。	H28.5～
	③勤労青少年ホーム跡地活用検討業務委託料を6月議会上程した。	H28.6
	④公共施設マネジメント推進委員会を開催した。	H28.9・29.3
	⑤新庁舎に対応した適切な庁内文書量へ削減を図った。	H28.4～
	⑥特定事業を選定し、公表した。(債務負担行為 6月議会上程)	H28.6
	⑦入札の公告、入札説明書等を公表した。入札説明書等に関する説明会を開催した。	H28.7
平成29年度	①高浜小学校等整備事業で教職員・保護者・児童・利用者団体等への事業説明、意見交換等を実施した。また、計画どおり工事に着手した。	H29.4～
	②勤労青少年ホーム跡地活用事業で、南テニスコート利用者説明会、希望団体へのトーク&トークを実施した。	H29.5・6・11

	③高浜市公共施設総合管理計画（公共施設推進プラン及びインフラ施設推進プラン等を含む。）見直し（案）のパブリックコメントを実施した。	H30.2
	④高浜市公共施設総合管理計画（公共施設推進プラン及びインフラ施設推進プラン等を含む。）の改定及び公表と、見直し案に対する意見及び回答を公表した。	H30.3
（４）市民の知りたい、市民に知ってもらいたい財政情報を積極的に提供します。		
該当アクションプラン H26～H29 【No.12】わかりやすい財政情報提供事業		
何を・どうした		いつ
平成26年度	①広報に（当初予算、決算、借金時計、貯金通帳）を掲載した。	H26.4～11
	②従来の「わかりやすい予算書」を踏襲した「平成27年度版当初予算の概要」（案）を作成した。	H27.3
平成27年度	①「平成27年度当初予算の概要」・「平成26年度決算の概要」冊子を発行した。	H27.4・11
	②長期財政計画（事業費見直し計画を含む。）を公表した。	H28.3
平成28年度	①「平成28年度当初予算の概要」冊子を発行した。	H28.4
	②「たかはまの財政」を広報紙に掲載した。	H28.7
	③「平成27年度決算の概要」冊子を発行した。	H28.11
	④「平成28年度予算の使いみち」を作成し公表した。	H28.11
平成29年度	①「平成29年度当初予算の概要」冊子を発行した。	H29.4
	②中学生向け財政情報「平成29年度予算の使いみち」を作成し公表した。	H29.5
	③「平成28年度決算の概要」冊子を発行した。	H29.12
（５）市民ニーズを反映した行政サービスを展開し、行政サービスの向上につながるものについては、国・県・近隣市などをはじめとした関係機関との広域的な連携を行います。		
該当アクションプラン H26～H28 【No.13】定住自立圏推進事業		
何を・どうした		いつ
平成26年度	①刈谷市美術館において、かわら美術館企画展チケットを販売した。	H26.4～ H27.3
	②定住自立圏共生ビジョン懇談会において各分野の進捗状況の確認を行った。	H26.6～
平成27年度	①刈谷ハイウェイオアシスで、交流イベント「きぬうら☆うらら音楽祭」を開催した。	H27.10
	②（仮称）第2次衣浦定住自立圏共生ビジョン策定にあたり、現行ビジョンに掲げる各事業の評価・課題の洗い出しを行った。	H27.10～ H28.3
平成28年度	①構成市町のボランティア活動団体について知っていただくため、「ご当地キャラGO！～つながるネットでボランティア～」をイオンモール東浦で開催した。	H28.10
	②衣浦定住自立圏関係市町長会議を開催し、衣浦定住自立圏共生ビジョン改訂版が承認された。	H29.2
	③観光分野における取組みとして、るるぶとコラボした小冊子「きぬうら」を発行した。	H29.2
平成29年度	①衣浦定住自立圏共生ビジョン推進講演会「人口減少時代を見据えたまちづくり」を共同開催し、参加した。	H30.2
	②構成市町のボランティア活動団体について知っていただくため、「つながるネットでボランティア Vol.2」を知立市中央公民館で開催した。	H30.3

Ⅲ. 課題と今後の取組みの方向性

課題	今後の取組みの方向性
<p>(1) 公共施設総合管理計画を推進する</p> <p>・公共施設総合管理計画を着実に推進していくため、複合化のモデル事業を進めているが、単に総量圧縮というハード面だけで考えられた計画ではなく、ソフト面においても、本計画が果たす役割を市民の方に理解していただく必要がある。</p>	<p>・高浜小学校等整備事業について、学校を核としたまちづくりを進めるための事例となるよう利用者等と意見交換を進めていく。</p>
<p>(2) 滞納状況に応じて市税を徴収する</p> <p>・これまで財産処分による滞納整理により徴収率の向上に努めてきたが、今後は滞納状況に応じて分割納付、執行停止、多重債務対策と言った救済措置も併せて実施する必要がある。</p>	<p>・滞納整理にかかる知識以外の幅広い知識を吸収させながら徴収困難事案に対応できる人材育成に努めていく。</p>
<p>(3) 健全な財政運営への取組みを強化する</p> <p>・普通交付税不交付団体となり、より自立度の高い財政運営が求められている。加えて、公共施設総合管理計画の推進など、今後ますます財政需要は増えることが予想される。さらに、国の財政状況も厳しく、補助金等の削減が予想され、市の負担は増える一方である。</p>	<p>・財源をいかに生み出すか、限られた財源をいかに重点配分するか、高浜市らしい身の丈にあった財政運営の確立を目指す。</p>



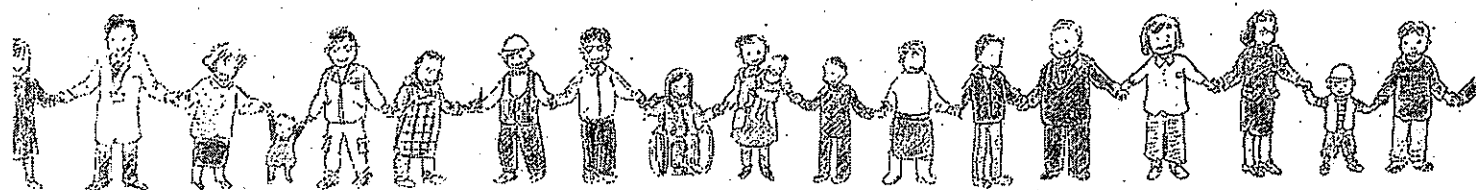
後期基本計画「目標(2) 将来を見据えた計画的・効果的な財政運営を行います」へのつながり	
こんなことに取り組みます！	平成30年度アクションプラン
市の財政運営や税金に関する情報など、市民の知りたい財政情報を積極的にわかりやすく発信します。	No.4 財政情報発信事業〔財務グループ〕
工業用地の創出、市税徴収力の強化、受益者負担の適正化など、財源の確保に努めるとともに、真に必要な事業を見極め、限りある財源のより効率的・効果的な活用に取り組みます。	No.5 受益者負担の適正化事業〔財務グループ〕 No.6 ICTでまちづくり推進事業 〔ICT推進グループ〕 No.7 経常経費見直し事業〔財務グループ〕
公共施設の再編や長寿命化に対する市民の理解を高めるとともに、順次、個別施設計画を策定し、公共施設総合管理計画の着実な推進につなげます。	No.8 公共施設総合管理計画推進事業 〔行政グループ〕 No.9 高浜小学校等整備事業 〔学校経営グループ 他〕

Ⅳ. 第6次高浜市総合計画推進会議 コメント

<p>・市民意識調査では「そう思う」は増加しているため、一定の人には「将来を見据えた財政運営」が評価されていると考える。これら市民を核として公共施設管理計画が理解されるような取組みが進められると良い。</p> <p>・情報公開のスピードUPをお願いしたい。</p>
--

基本目標

2



目標 (3)

人と学びの輪を広げ、まちのチカラを育みます



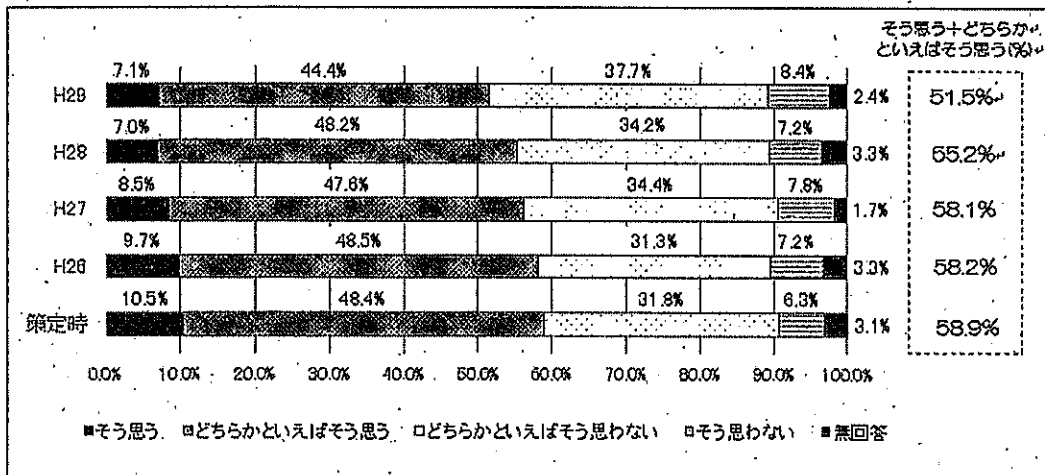
▲高浜市誌編さん事業（「聞き書き」の実践）

I. 目標と目標の達成状況

1. 目指す姿	
目標達成に向けての考え方	地域の中で、「教わりたい人」と「教える人」（知恵・知識・特技などを持った人）とつながるなど、人・学びの接点を豊かにし、「まなび」を全世代へ広げ、「人づくり」から「まちづくり」へと動きをつなげていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 感動との出会いにより、子どもだけでなく、大人もともに成長し、次の世代へ夢とロマンを語り継いでいます。 ◇ 個人が学んだ成果を、まちづくりに積極的に活かしています。 ◇ 「人づくり」から「まちづくり」への動きにつながっていくことで、高浜市に愛着や誇りを持つ市民が増えています。 ◇ スポーツ・レクリエーションを通じて市民が交流し、市民の連帯感が向上しています。

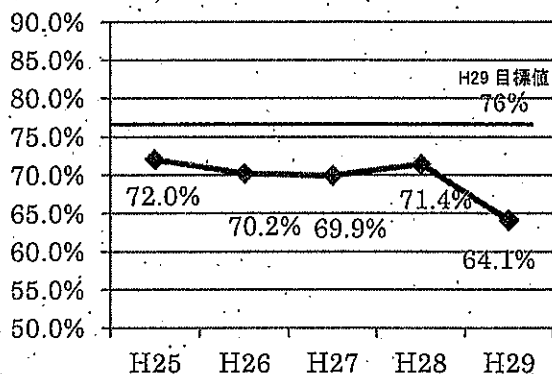
2. 市民意識調査結果

【設問】 学び（生涯学習やスポーツなど）を通して、人と人がつながり、まちづくりを担う人が育っているまちだと思う。

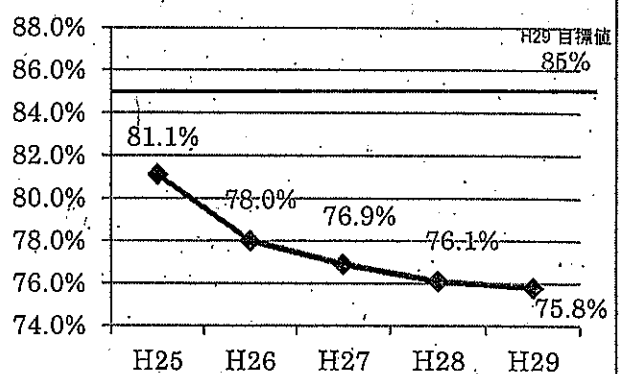


3. 「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

1) 高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合



2) 将来の夢を持っている子どもの割合



4. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する現状分析（要因・課題等）

○市民意識調査「学び（生涯学習やスポーツなど）を通して、人と人がつながり、まちづくりを担う人が育っているまちだと思う」51.5%（計画策定時比▲7.4ポイント）

・策定以来、年々減少しているが、その一因として生涯学習施設の再編が影響していると思われる。将来を見据えて取り組んでいることを、丁寧に伝えていく必要がある。行政だけでなく、市民・団体・事業者など多様な主体、公共施設に限らず、多様な場で学びが行われることによって、人と人とのつながりが生まれ、輪が広がっていく。“学びを通してまちづくりを担う人が育つ”段階に至るまでには時間がかかるが、まちづくり協議会などの地域団体、文化・スポーツ団体、事業者や生涯学習施設等と本市が目指す生涯学習の姿を共有し、連携・協力しながら粘り強く取り組みたい。

○指標1「高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合」64.1%

（計画策定時比▲7.9ポイント 目標値比▲11.9ポイント）

・報告書によれば、年代別に見た場合、50代以下は実績値を下回る傾向にある。「まちへの愛着・誇り」は「高浜市をもっといいまちにしていこう」という、まちづくりの原動力となる。新しい住民も増えており、まずは「高浜のことを知る」「魅力に触れる」ことが重要となる。「情報・資料を提供する」「語る」「調べる」「関わる」など多様な参加・参画機会を設けながら、地域の良さや魅力を掘り起こし、発信していくことにより、市民の「まちへの愛着・誇り」の機運を醸成したい。

○指標2「将来の夢を持っている子どもの割合」75.8%

（計画策定時比▲5.3ポイント 目標値比▲9.2ポイント）

・策定以来、年々減少しているが、報告書によれば、特に学年が上がるにつれて割合は減少傾向にある。年齢や経験を重ねるにつれ、自分の適性や社会の現実を知るようになり、これまで抱いていた夢との不一致を感じる子どもが増えていることが考えられる。将来の夢を持つことは、目標に向かって自ら学び、努力・挑戦していくという意欲を高め、成長に資するものである。生涯学習分野だけでなく、学校教育分野とも連携し、各種学習・文化・スポーツ活動などを通して、まなびのエネルギーとなる好奇心や感動、楽しい成功体験が得られるように努めていきたい。

II. 目標達成のための主な取組み（「こんなことに取り組みます！」の実施内容）

（1）地域の人たちがさまざまな先生役となり、地域の人たち（特に、子ども）の成長に関わる機会を増やします。

該当アクションプラン		H26 学びによるつながり創出事業	H27~29 タカハマ！まるごと宝箱事業 / H29 市誌編さん事業
		何を・どうした	いつ
平成26年度	①市民とともにまちの魅力・自慢を掘り起こし、語り継ぐ取組みとして、タカハマ！まるごと宝箱事業を立ち上げた。様々なテーマを設定し、調査した市民を交えた学び合い・語り合いの会を開催した。		H26.7~H28.3
	②愛知教育大学との連携公開講座（地域の歴史・文化について民俗学してみよう）、図書館との協働による高浜ふるさと講座（高浜市における土管作りのはじまり／写真で見る衣浦大橋周辺の今昔）を開催した。		H26.10 H26.11 H27.2
平成27年度	①高浜市の歴史・文化・自然・交通など様々なテーマを設定し、調査した市民を交えた学び合い・語り合いの会を開催し、資料収集や魅力・自慢の発信、それらに関わる人材の掘り起こしを行った。		H27.4~H28.3
	②名古屋市立大学と連携して三州瓦にまつわる聞き取り調査を行い、「かわらフォーラム」の開催、聞き書き冊子「たかはまとかわら」を編集・発行、冊子の「おひろめ会」を開催した。		H27.6~H28.3
平成28年度	①高浜市の歴史・文化・自然・交通など様々なテーマを設定し、調査した市民を交えた学び合い・語り合いの会を開催し、資料収集や魅力・自慢の発信、それらに関わる人材の掘り起こしを行った。		H28.4~H29.2
	②これまでの開催内容の記録を冊子にまとめたほか、開催資料を図書館等で閲覧できるようにした。		H28.10~H29.3
平成29年度	①高浜市の歴史・文化・自然・交通など様々なテーマを設定し、調査した市民を交えた学び合い・語り合いの会を開催し、資料収集や魅力・自慢の発信、それらに関わる人材の掘り起こしを行った。		H29.4~H30.3
	②（3）参照		

基本目標Ⅱ 学び合い 力を合わせて 豊かな未来を育もう

(2) 地域ぐるみで未来に羽ばたく人材を育て、まちづくりの活力を高めます。		
該当アクションプラン H26 未来にはばたく人材育成事業 / H27 こども・若者成長応援事業 H28・29 タカハマ!まるごと宝箱事業 / H29 市誌編さん事業		
何を・どうした		いつ
平成26年度	①異年齢の子どもたちが交流しながら、考え抜く力・挑戦意欲・創造性等を育むたかはま夢・未来塾講座を実施した。	H26.4~H27.3
	②中高生を含む市民スタッフと市民映画「タカハマ物語」第2弾作戦会議を開催した。シナリオ・撮影・演技ワークショップの開催、出演者オーディション、製作発表会など、製作に向けた準備を進めた。	H26.7~H27.3
平成27年度	①中高生スタッフを中心に、市内各所で「タカハマ物語2 心のツバサ」の撮影を行い、上映会を開催した。	H27.5~H28.2
	②鬼みちまつり、大家族たかはま会議、市民駅伝、シティマラソンなどに参加し、「タカハマ物語2」製作活動を紹介するとともにイベントを盛り上げた。	H27.10~H28.1
平成28年度	① (1) 参照	
平成29年度	① (1)・(3) 参照	
(3) 地域の良さ(歴史、文化、伝統など)を学び、地域の魅力の掘り起こし・情報発信を進めます。		
該当アクションプラン H26 学びによるつながり創出事業 / H27 タカハマ!まるごと宝箱事業 H28・H29 タカハマ!まるごと宝箱事業、市誌編さん事業		
何を・どうした		いつ
平成26年度	① (1) 参照	
平成28年度	①市民等で構成する「市誌編さん委員会」を立ち上げ、編さん基本方針や編さん体制などの検討を行った。	H28.11・H29.3
	②市誌の収録内容の検討や調査執筆員の選定、部会編成を行った。	H28.6~H29.3
平成29年度	①市民や学識経験者等で構成する「市誌編集委員会」を立ち上げ、本格的に市内外での資料調査及び執筆活動を開始した。	H29.6~H30.3
	②タカハマ!まるごと宝箱事業と市誌編さん事業との連携企画として、調査執筆員による講座や公開調査(聞き書き)を実施した。	H29.7~H30.3
	③市民や名古屋市立大学と連携・協力し、『新編高浜市誌 高浜市のあゆみ資料』の第一弾「聞き書き 吉浜の養鶏・高取のくらし」を編集・発行した。	H29.8~H30.3
(4) 誰もが楽しめるスポーツ・レクリエーションの機会をつくり、市民交流の場を充実します。		
該当アクションプラン H26・27 高浜緑地グランド整備事業、生涯スポーツ推進事業 H28 (仮称)高浜緑地整備事業、生涯スポーツ推進事業 H29 高浜芳川緑地整備事業、生涯スポーツ推進事業		
何を・どうした		いつ
平成26年度	①たかはまスポーツクラブ・高浜市体育協会・高浜ボートクラブ・高浜市スポーツ推進委員会と協働でのスポーツ行事や教室・体験会等を実施した。	H26.4~H27.3
	②(仮称)高浜緑地上部利用について、愛知県衣浦港務所と定期的に打合せを実施した。また、市民と検討会を立ち上げ、ワークショップを開催した。	H26.4~H27.3
平成27年度	①たかはまスポーツクラブ・高浜市体育協会・高浜ボートクラブ・高浜市スポーツ推進委員会と協働でのスポーツ行事や教室・体験会等を実施した。	H27.4~H28.3
	②(仮称)高浜緑地の整備に向け、スポーツ団体や渡し場かもめ会等から利用に対する意見を聴き、詳細設計を完成させた。	H27.4~H28.3
平成28年度	①(仮称)高浜緑地の整備に向け、愛知県衣浦港務所と、県及び市実施工事の内容やスケジュールについて調整した。また、利用方法等に関して、関係団体を交えて意見交換を行った。	H28.4~H29.3
	②機能移転を予定している体育施設について、利用状況等の分析を行うとともに、利用者やテニス協会等と意見交換を行った。	H28.4~H29.3

平成29年度	①高浜芳川緑地多目的広場を供用開始した。スポーツ団体等と協力してオープニングイベント（少年野球教室、少年野球大会、サッカー小学生市民体育大会など）を開催した。	H29.7
	②平成29年度内に閉館・閉場をした体育施設（南テニスコート、青少年ホーム）について、利用者やテニス協会等と施設利用に関する調整を行った。	H29.4~H30.3
	③財産の有効活用と民間活力を活かしたスポーツ拠点の整備に向け、勤労青少年ホーム跡地活用事業を推進し、跡地活用事業者の選定を行った。	H29.4~H30.3

Ⅲ：課題と今後の取組みの方向性

課題	今後の取組みの方向性
<p>(1) まちへの愛着・誇りを高める</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民の共有財産である資料等の散逸・消失を防ぎ、先人たちの歩みやまちへの想いを知り、市の財産として将来へと伝え、活かしていくことが大切である。 本市では人口が緩やかに増加しているが、大半が社会増(転入)である。まちづくりの原動力となる「高浜市が好き」という想いを高めていくため、まちの魅力・自慢を知る・触れる・関わる機会を創出していくことが重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇市誌編さんやタカハマ！まるごと宝箱などを通して、資料を探す・提供する、調べる、まとめる、写真や映像に残す、まちのことについて語り合うなど、それぞれの興味・関心・特技などに応じて、様々な世代が関わり合うことができる機会を創出する。 ◇市民が様々な魅力・自慢を知ることによって好奇心や意欲を喚起し、学んだこと・調べたことを「伝えたい」「誰かの役に立ちたい」「住んでいるまちをより良いものにしたい」といった動きを広げていく。
<p>(2) 学んだ成果を社会等へ還元する</p> <ul style="list-style-type: none"> 「自分のための学び」にとどまることなく、学んだり体験したことを「教える」「発表する」「活動する」など、社会の中で、あるいは次の世代のために様々な形で活かせる機会を創出することが大切である。 将来、教える側・活動を担う側に回るといった循環を見据え、市民（特に子ども・若者）の好奇心や意欲の高まりにつながる講座・体験・事業などに取り組んでいく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇活動の担い手・教え手の掘り起こしや活躍機会の創出を、市民団体・地域・事業者・生涯学習施設と連携・協力しながら取り組む。 (例) たかはま夢・未来塾サポーター、美術館アートサポートメンバー、図書館ボランティア、タカハマ！まるごと宝箱発表者、地域が主体となった講座の講師 など
<p>(3) スポーツ・レクリエーションを通じた市民交流の充実を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康寿命の延伸が重要視されており、若い頃からスポーツや健康づくりの習慣を身につけることが大切である。 子どもから年配の方まで、初心者も熟練者も、運動が得意な方も苦手な方も、また、時間や場所を問わず、あらゆる方々が生涯を通じてライフスタイルに合わせて実践できるスポーツ・レクリエーションの普及が大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇市民やスポーツ団体等と連携しながら「ポッチャ」「ファミリーバドミントン」「ノルディックウォーキング」など、年齢・性別を問わず「いつでも・どこでも・だれでも・いつまでも」気軽に楽しめるニュースポーツの普及、機会充実に取り組む。 ◇勤労青少年ホーム跡地活用事業や高浜小学校等整備事業などにより、スポーツを通じた市民交流拠点の整備・再編を推進する。



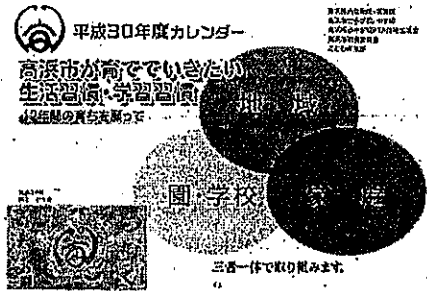
後期基本計画「目標(3)「学び・文化・スポーツの輪を広げ、まちの子カラを育みます」へのつながり	
こんなことに取り組みます！	平成30年度アクションプラン
市民とともにまちの魅力・自慢（歴史・文化・伝統・産業・景観など）を掘り起こし、守り、伝え、活かしていく活動を強化します。	No.10 市誌編さん事業 〔文化スポーツグループ〕
市民（特に子ども・若者）の「知りたい」「やってみたい」「役立ちたい」を応援し、市民同士が学び合い、高め合う場づくりを進めます。	No.11 学び合い・高め合い事業 〔文化スポーツグループ〕
「いつでも・だれでも・どこでも・いつまでも」気軽に楽しめるスポーツ・レクリエーションの機会をつくり、市民交流の場を充実します。	No.12 生涯スポーツ推進事業 〔文化スポーツグループ〕

Ⅳ. 第6次高浜市総合計画推進会議 コメント

- ・まちへの愛着や誇りを持つ1つのキッカケはまちの歴史の理解であると思う。中期において行われていた「まるごと宝箱事業」は、インパクトが少なかったように思う。市誌編さん事業による情報はこれまで以上に市民に伝え、興味関心を持ってもらえることを期待する。
- ・『高浜市のあゆみ 資料』を学校で教材として使用する事を検討してほしい。

目標(4)

学校・家庭・地域が連携を深め、12年間の学びや育ちをつなげます



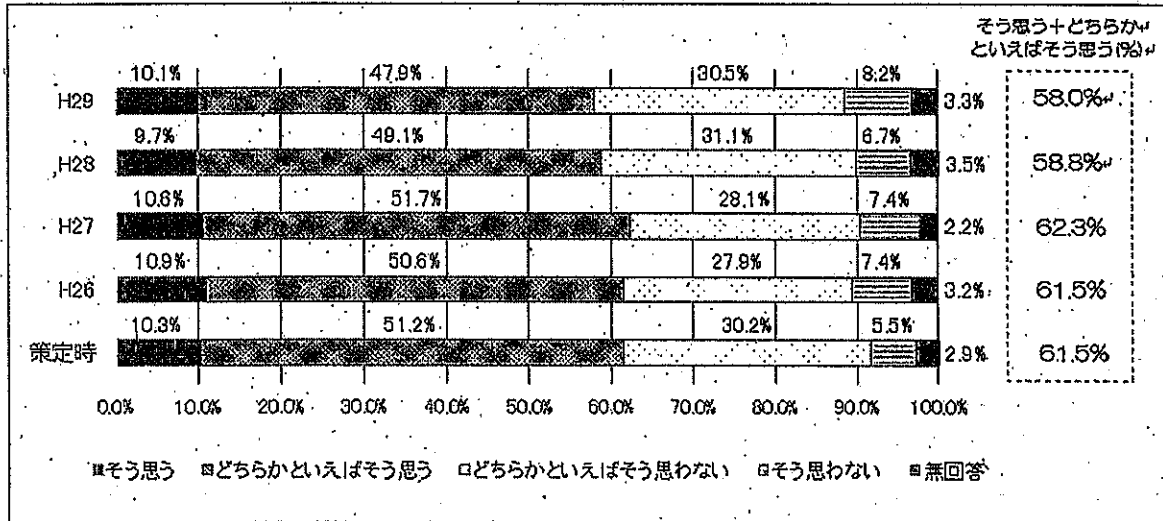
▲「育でいききたい子どもの姿」周知のためのカレンダー

I. 目標と目標の達成状況

1. 目指す姿	
目標達成に向けての考え方	幼稚園・保育園、小学校、中学校といった異校種間の「タテのつながり」と、園・学校・家庭・地域といった「ヨコのつながり」を密にし、次世代を担う子どもをみんなで力を合わせて育てていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 高浜市内の幼・保、小、中すべての教職員が、それぞれの教育観や指導法の共通点・相違点を十分理解した魅力ある授業を実施したり、子どもの様子について情報の交換を密にしたりすることで、子どもが元気に園や学校へ通っています。 ◇ 子どもが学校や家庭だけでなく、地域の様々な人とかかわりながら学んでいます。 ◇ 発達段階に応じた学習習慣や生活習慣を身につけた子どもが増えています。

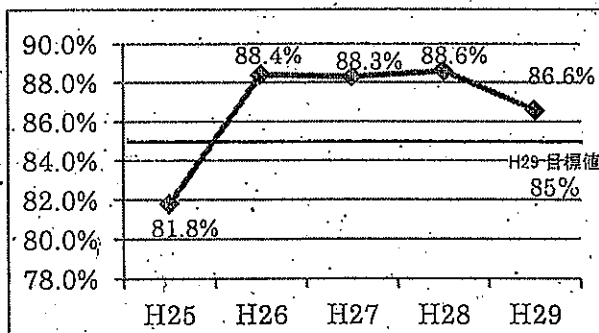
2. 市民意識調査結果

【設問】学校・家庭・地域が連携し、子どもの12年間(4歳~15歳)の学びや育ちを育む体制が整っているまちだと思う。

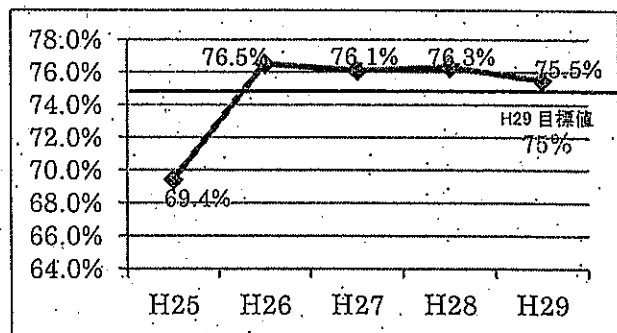


3. 「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

1) 学校が好きと感じている子どもの割合



2) 学習に積極的に取り組む子どもの割合



4. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する現状分析（要因・課題等）

- ・4年間連続して指標の目標値を達成できたのは、学校が子どもたちにとって安心して学べる場所となっているからといえる。市内の教職員が子どもたちの様子や指導観、指導技術等について情報交換する場をもつことで、子どもをより深く理解したり、教職員の指導力・授業力の向上につながったりして、子どもの学校を好きという気持ちや学習意欲を高めることができた。
- ・今後は、より多くの地域の人たちが、子どもたちが高浜市のよさを実感して成長していると感じてもらうために、地域とのかかわりをさらに深め、子どもの12年間の学びや育ちの体制を整えていく。

Ⅱ. 目標達成のための主な取組み（「こんなことに取り組みます！」の実施内容）

（1）幼稚園・保育園、小学校、中学校の垣根を越えて、教職員同士が現場をふまえた情報交換を密にするとともに、子どもたちの交流を行うなど、発達段階に応じた教育を実践します。

該当アクションプラン H26～H29 異校種間連携推進事業

何を・どうした		いつ
平成26年度	①異校種参観（年長・小1・小6・中1担任）や異校種間連携事業を実施した。（幼保小連携、小中連携）	H26.4～ H27.3
	②異校種間連携推進委員会を開催し、各校連携の状況報告を行った。（年5回）	H26.5～ H27.3
	③「中1ギャップ」に関する実態調査を行い、分析結果を報告した。	H26.6 H27.1
平成27年度	①異校種参観を年長、小1、小6、中1担当教諭で行った。	H27.5～
	②中1生徒の学校生活意識調査を行い、異校種間連携推進委員会にて分析結果を報告した。	H27.6 調査 H27.8 報告
	③異校種連携事業・異校種参観の成果と課題をまとめ、周知した。	H28.1
平成28年度	①異校種参観を対象職員で行った。	H28.5～
	②中1生徒の学校生活意識調査を行い、結果を報告した。	H28.6
	③幼保小中連携事業の年間計画を現状に合わせて改善した。	H28.5～
	④幼保小中の学習指導法を集約した。	H28.5～
	⑤「育てていきたい子どもの姿」周知のためにカレンダーを配付した。	H28.5
平成29年度	①異校種参観を対象職員で行い、参観者が学んだことをまとめ、周知した。	H30. 2
	②中1生徒の学校生活意識調査を行い、結果を報告した。	H29. 8
	③異校種連携事業の実施について成果と課題をまとめ、改善を図った。	H30. 2

（2）各園・各学校の特色や高浜市のまちの資源（ひと・もの・こと*）を活かした「高浜カリキュラム（生活・総合的な学習の時間）」を市内全園・全校で実施します。

該当アクションプラン H26～H29 高浜カリキュラム推進事業

何を・どうした		いつ
平成26年度	①幼保小中において、保育計画・学習計画を作成・実践した。	H26.4～
	②各園、各校の実践を、他園や他校が参考にできるよう、「学習指導計画」や「ワークシート」などの各指導資料を作成し、全園・全校がいつでも閲覧できるように保存した。	H27.3
平成27年度	①高浜カリキュラムを充実させるために、推進委員会を3回開催し、目標や入力するモデルプランを話し合った。	H27.5・8
	②高浜カリキュラムの目標や実践後の子どもの姿を、発達段階を踏まえて確認した。	H27.8

基本目標Ⅱ 学び合い 力を合わせて 豊かな未来を育もう

	③各園・各校における高浜カリキュラムの実践状況を確認し、ワークシートや単元構想図などを所定の場所に整理して保存した。	H27.5・8
平成28年度	①年長の食育、小2の生活科、小6の防災、中3のキャリア教育のモデルプランを加えて、12年間の学びをつなげる高浜カリキュラムを実践する。	H28.5～
	②これまで集約したモデルプランや資料について実践を行いながら、修正を加えていく。	H28.5～
	③各教科において、子どもを生き生きと活動させる魅力ある単元構想を集約し、教員の授業力の向上を図り、子どもの学力定着や生きる力の育成につなげる。	H28.5～
平成29年度	①食育、生活科・総合的な学習の時間の高浜カリキュラムを改訂した。	H30. 3
	②教科版高浜カリキュラムを集約した。	H30. 3
	③高浜カリキュラムで、主体的・対話的で深い学びを狙い、コミュニケーション能力の育成につなげる。	H29. 5～
(3) 高浜市として育てていきたい子どもの姿を策定し、地域ぐるみで子どもの成長を見守り、手助けする教育基盤づくりを進めます。		
該当アクションプラン H26～H28 めざす子ども像推進事業 H29 異校種間連携推進事業		
何を・どうした		いつ
平成26年度	①異校種間連携推進委員会にて、育てていきたい子どもの姿の周知方法を検討した。	H26.5～8
	②校種間連携推進委員会にて、育てていきたい子どもの姿を周知するためのカレンダーや周知用ポスターのデザインについて検討した。	H26.8
	③教育基本構想推進の様子を家庭や地域に可視化するため、カレンダーに各校各園の活動写真や連携交流事業日程を掲載したデザインにした。	H27.1
平成27年度	①「育てていきたい子どもの姿」周知のためにカレンダーを配布した。また、PTA 総会などを活用して、保護者へ説明した。	H27.5
	②育てていきたい子どもの姿」周知のために実践した具体的な取り組みを推進委員会で発表した。	H27.8
	③広報に毎月の重点目標を紹介した。	H27.7～
平成28年度	①異校種参観を対象職員で行った。	H28.5～
	②中1生徒の学校生活意識調査を行い、結果を報告した。	H28.6
	③幼保小中連携事業の年間計画を現状に合わせて改善した。	H28.5～
	④幼保小中の学習指導法を集約した。	H28.5～
	⑤「育てていきたい子どもの姿」周知のためにカレンダーを配付した。	H28.5
平成29年度	①「育てていきたい子どもの姿」や各校・園の取組の周知のため、市内幼・保、小、中に通う子ども全員と地域各種団体に配付する活用型カレンダーについて検討した。	H30. 2
	②「育てていきたい子どもの姿」があらわれている写真やイラストを集積した。	H30. 2
	③幼保小中の高浜版学習指導法を周知した。	H30. 2

Ⅲ. 課題と今後の取組みの方向性

課題	今後の取組みの方向性
(1) 高浜カリキュラムを実践し、集約する	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した授業や高浜版プログラミング教育を実践したり、教科版として、優れた授業実践案や単元構想などを集約したりする。 ・主体的・対話的で深い学びを狙い、コミュニケーション能力の育成に取り組む。
(2) 異校種間連携事業（異校種参観含む）の改善を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども中心の取り組みである異校種間連携事業を精選する。 ・異校種参観を行い、互いの教育観を学び、授業力を高めることにつなげる。
(3) 育てていきたい子どもの姿を周知する（カレンダー作成）	<ul style="list-style-type: none"> ・園児から中学生まで全員に活用型のカレンダーを配付し、子ども一人一人が目指す姿を意識できるようにする。
(4) 個のニーズに応じた教育の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・幼・保、小、中の教員が子どもの個々の支援情報の引き継ぎを確実に行う。 ・教員の特別支援教育への理解を深める研修を行う。



後期基本計画「目標（４）学校・家庭・地域が連携を深め、12年間の学びや育ちをつなげます」へのつながり	
こんなことに取り組みます！	平成30年度アクションプラン
異校種間連携事業で、自分や周りのよさに気づいたり、よさを活かしたりできるよう、支援します。また、異校種参観で教師力を向上させ、子どものよさを引き出す指導を展開します。	No.13 異校種間連携推進事業 〔教育センターグループ〕
<ul style="list-style-type: none"> ・高浜カリキュラムで、高浜の人・もの・ことを活かした教育を実践します。また、活用型のカレンダーを使って「高浜市が育てていきたい子どもの姿」を周知します。 ・高浜カリキュラム教科版で、優れた授業実践案を集約・活用したり、ICTを活用した授業や、高浜版プログラミング教育を実践したりして、主体的・対話的で深い学びを支援します。 	No.14 高浜カリキュラム推進事業 〔教育センターグループ〕
支援の必要な児童生徒の特別支援ファイルの作成と引き継ぎを確実にを行うシステムを構築します。また、教職員の特別支援教育への理解をより深めるとともに、指導力・実践力の向上をめざした研修を充実します。	No.15 異校種間連携推進事業 〔学校経営グループ〕

Ⅳ. 第6次高浜市総合計画推進会議 コメント

- ・部活動に、外部の方（地域）を積極的に活用して教職員の負担を減らしていければ良いと思う。
- ・異校種間連携事業と活用カレンダー以外の新たな施策も実施してもらいたい。

目標（5）

地域ぐるみで子育て・子育てを支えます



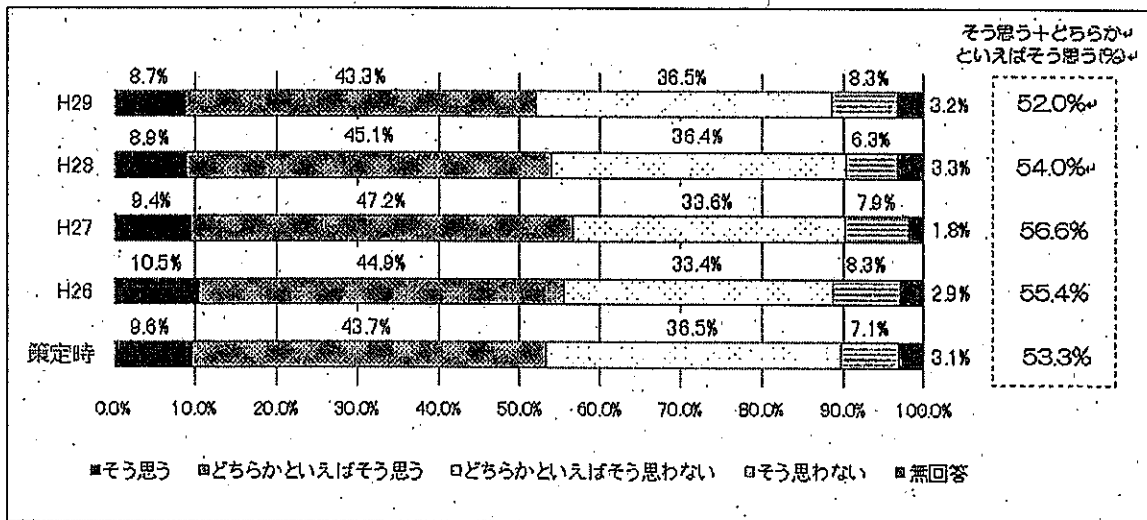
▲放課後居場所事業

I. 目標と目標の達成状況

1. 目指す姿	
目標達成に向けての考え方	地域社会を構成する地域・事業者・関係機関と連携し、子育て・子育てを総合的に支援することにより、「社会の宝」である子どもが健やかに成長でき、安心して子どもを産み育てることができる環境を整えていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 子育てと仕事の両立など、安心して子どもを産み、育てられる環境が整っています。 ◇ 子育てを楽しむ親や地域の大人が増え、親子の対話や世代間交流が活発に行われ、子どもとともに成長しています。 ◇ 子どもの視点に立った成長支援が地域ぐるみで行われ、子どもがのびのびと活動し、家庭やまちに笑顔があふれています。

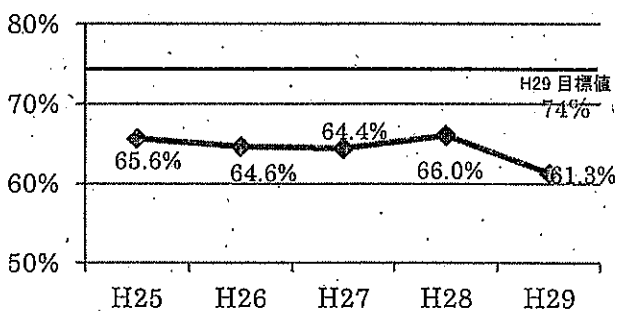
2. 市民意識調査結果

【設問】地域ぐるみで、子育て・子育てを支えているまちだと思う。

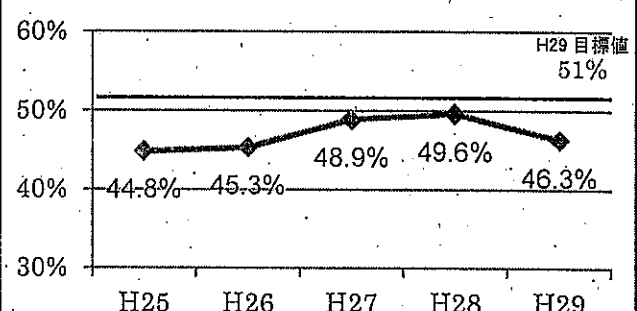


3. 「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

1) 子どもを産み、育てやすいと感じている人の割合



2) 子どもとふれあう行事に参加したことがある人の割合



4. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する現状分析(要因・課題等)

- ・指標1)「子どもを産み、育てやすいと感じている人の割合」は61.3%と平成25年度調査65.6%から4.3%の減となっている。国の施策の影響で、保育サービスの利用ニーズが増加しており、受け皿の拡大をしても追いつかない状況であり、目標値の74%には達成しない状況であった。
- ・指標2)「子どもとふれあう行事に参加したことがある人の割合」は46.3%と平成25年度調査44.8%から4.3%の増となっているが、目標値の51%には達成しない状況であった。全市的な行事、各学区での行事が増加傾向であり、参加者も増加していたが、目標達成には至らなかった。
- ・市民意識調査結果「地域ぐるみで、子育てを支えているまちだと思う」は52.0%と平成25年度調査53.3%から1.3%減となっている。
- ・いずれについても目標達成に至らない結果となり、待機児童対策をはじめ、さらなる施策の充実が必要と感じる。

II. 目標達成のための主な取組み(「こんなことに取り組みます!」の実施内容)

(1)「高浜市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、多様で柔軟な保育サービスの提供など、子育てニーズを適切なサービスに結びつける取組みを進めます。

該当アクションプラン H26~H29 保育サービス充実事業

	何を・どうした	いつ
平成26年度	①人口分布が多い4歳児において、弾力運用による対応を行った。	H26.4~ H27.3
	②家庭的保育の新制度対応について検討した。(食事、勤務体系等)	H26.4~ H27.3
	③子ども・子育て会議を開催し、「子ども・子育て支援事業計画」を策定した。	H26.4~ H27.3
平成27年度	①吉浜さんさん保育園の3歳児定員を追加した。	H27.4~
	②保育園の定員の弾力運用により、受入れ児童数増の対応を行った。	H27.4~
	③家庭的保育施設で子ども・子育て支援新制度に対応できるよう、給食提供を開始した。	H27.4~
平成28年度	①吉浜さんさん保育園の4歳児定員を追加した。	H28.4~
	②保育園の定員の弾力運用により、受入れ児童数増の対応を行った。	H28.4~
	③高浜幼稚園で、7:30~18:00 までの長時間預かり保育を開始した。	H28.4~
平成29年度	①吉浜さんさん保育園の5歳児定員を追加した。	H29.4~
	②保育園の定員の弾力運用により、受入れ児童数増の対応を行った。	H29.4~
	③高取幼稚園・高取保育園の民営化・認定こども園化の運営法人を決定した。	H29.6

基本目標Ⅱ 学び合い力を合わせて豊かな未来を育もう

(2)子どもの想いを理解し、子どもの視点に立って、成長を支援できる大人を増やす取り組みを行い、「地域の子育て力」を高めます。		
該当アクションプラン H26 子育て・家族支援ネットワーク事業、 子どもと大人のパートナーシップ推進事業 H27～H29 子育て・家族支援ネットワーク事業		
何を・どうした		いつ
平成26年度	①子ども市民憲章普及啓発冊子「おとなもこどもも」を配布・設置した。	H26.4～ H27.3
	②子育て支援団体の活動内容を、ブログを活用したシステムで提供できるようにした。	H26.7
	③市ポータルサイトの更なる利便性の向上のため、利用者ニーズの把握のためのアンケートを実施した。	H26.11
平成27年度	①アンケート結果等を活かし、子育て支援ネットワークのポータルサイトの情報更新を随時行った。	H27.4～
	②子育て中の登録者に対し、子育て支援ネットワークのメールマガジンを配信し、行事予定等の情報提供をした。	H27.4～
	③子育て・家族支援者養成講座(利用者支援コース)を実施し、子育て支援の人材育成を行った。	H27.9～11
平成28年度	①こども育成グループに、子育て支援コーディネーターを配置し、利用者の相談体制を拡充した。	H28.4～
	②いちごプラザに、子育て・家族支援者を配置し、身近な場所での利用者支援を拡充した。	H28.4～
	③ポータルサイトやメールマガジンで定期的に情報提供をした。	H28.4～
平成29年度	①子育て支援員研修を開催し、子育て支援員を認定した。	H29.5～ H29.9
	②ポータルサイトやメールマガジンで定期的に情報提供をした。	H29.4～
(3)世代間や異年齢同士の子どもの交流機会を豊かにし、子どもの自主性・社会性を育む居場所を充実します。		
該当アクションプラン H26～H29 居場所充実事業		
何を・どうした		いつ
平成26年度	①市内5つの小学校で放課後居場所事業を実施した。	H26.4～ H27.3
	②放課後居場所事業において、雨天中止時等の対応を検討した。	H26.4～ H27.3
	③夏季休暇において、昼間保護者がいない児童を対象に、弁当持参で児童センターを利用することができるサマーキッズを実施した。	H26.7～8
平成27年度	①各小学校区において、雨天時や長期休暇にも対応する年間を通じた居場所事業「センターキッズ」を開始した。	H27.4～
	②夏休み等に市内の方を講師にした講座を開催した。	H27.4～
	③児童クラブの入会説明会時に、居場所のチラシを配布した。	H28.1～
平成28年度	①小学校の全校集会で居場所事業のPRをした。	H28.5
	②夏休みに、地域の方々を講師にした講座を開催した。	H28.8
	③子育て支援ポータルサイトで居場所事業のページを充実した。	H28.9
平成29年度	①小学校の全校集会で居場所事業のPRをした。	H29.5
	②夏休みに、地域の方々を講師にした講座を開催した。	H29.8
	③子育て支援ポータルサイトで居場所事業の情報提供を行った。	H29.4～

Ⅲ. 課題と今後の取組みの方向性

課題	今後の取組みの方向性
<u>(1) 待機児童対策を引き続き行う</u> ・国が大幅に進めようとしていることもあり、特に1・2才児の待機児童への対策が、引き続き重要な課題となる。	・国の施策により、就労女性の増加がさらに進むとともに、保育ニーズの早期化が求められる。
<u>(2) 身近な場所での子育て支援を行う</u>	・子育て家庭への支援は、行政だけで解決できるものではなく、地域と一緒に解決していく必要がある。 ・幼稚園や保育園、子育て支援センターや児童センターなど、子育てを支援する施設に加え、小学校区内のような身近な場所で子育てを支援する人材の育成や確保が必要である。
<u>(3) 身近な場所での子どもの居場所づくり</u> ・全国的に放課後児童クラブの利用ニーズがさらに増加傾向となることが予想される。	・児童センターや学校ではない場所で、昔の駄菓子屋のような、また、高齢者の健康自生地のような、子どもたちが放課後に身近に集える場が必要である。



後期基本計画「目標(1) まちへの想いを育み、いつまでも住み続けたいと思えるまちをつくります」へのつながり	
こんなことに取り組みます！	平成30年度アクションプラン
「高浜市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、多様で柔軟な保育サービスの提供など、子育てニーズを適切なサービスに結びつける取組みを進めます。	No.16 保育サービス充実事業 〔こども育成グループ〕
子どもの想いを理解し、子どもの視点に立って、成長を支援できる大人を増やす取組みを行い、「地域の子育て力」を高めます。	No.17 子育て・家族支援ネットワーク事業 〔こども育成グループ〕
世代間や異年齢同士の子どもの交流機会を豊かにし、子どもの自主性・社会性を育む居場所を充実します。	No.18 居場所充実事業〔こども育成グループ〕

Ⅳ. 第6次高浜市総合計画推進会議 コメント

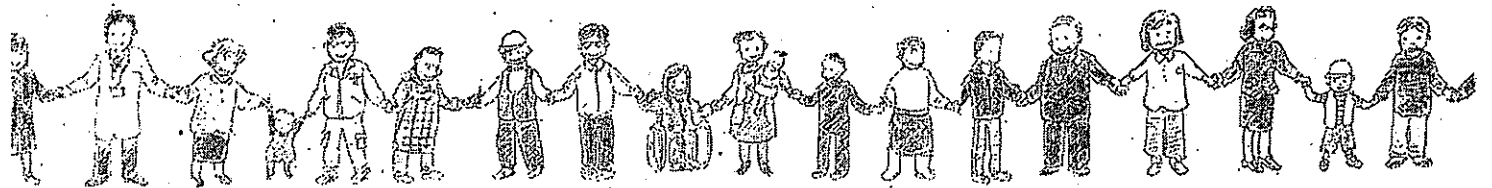
- ・夏休みの児童センター講座について、募集の周知やPRの方法を検討して、新たな講師の発掘をしてはいかかがか。

MEMO



基本目標

3



目標(6)

産業を活性化して、まちを元気にします



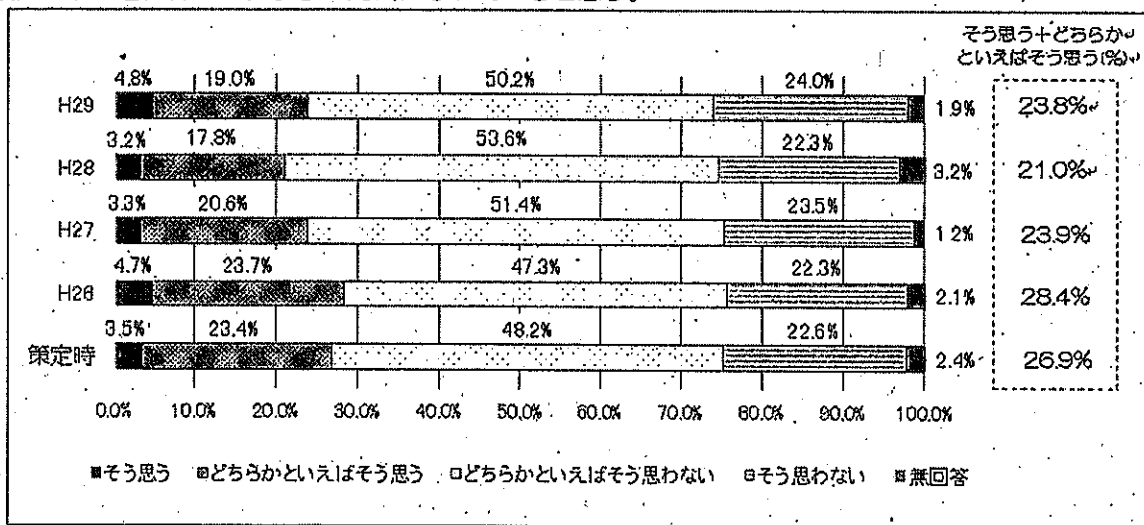
▲SBP(ソーシャルビジネスプロジェクト) 出店のようす

I. 目標と目標の達成状況

1. 目指す姿	
目標達成に向けての考え方	働く場や消費の場として市民の日常の暮らしを支え、まちの活力を生み出す基盤である産業(農業・商業・工業など)を活性化するため、現場のニーズをふまえた振興策や、事業者やまちの強みを伸ばす取組みを応援していきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 事業者やまちの強みを活かした産業活動が、活発に行われています。 ◇ 新たな雇用や消費が生まれ、市民生活の基盤が安定しています。 ◇ まちの元気を生み出そうと、意欲を持った市民や団体が、ビジネスの手法による地域課題解決や活性化に向けた行動を起こしています。 ◇ まちの魅力や自慢が市内外に知られ、高浜市で過ごす時間を楽しむ人が増え、賑わいや活気が生まれています。

2. 市民意識調査結果

【設問】産業が活性化して、まちが元気になっていると思う。



3. 「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

1) 市内の法人数	2) 行政がかかわるイベントの来場者数
<p>H29 目標値 930 社</p>	<p>H29 目標値 100,000 人</p>

4. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する現状分析(要因・課題等)

- ・市内法人数については、横ばいに推移しており、景気は緩やかに回復していると考えられる。
- ・市内イベント来場者数については、秋のイベントが悪天候により予定としていた来場者を迎えることができず、前年度より下がる結果となった。

II. 目標達成のための主な取組み(「こんなことに取り組みます!」の実施内容)

(1) 行政内部や関係機関との連携を強化し、新たな工業用地の創出や企業誘致を進めます。		
該当アクションプラン: H26~H29 工業用地創出事業、企業誘致事業		
	何を・どうした	いつ
平成26年度	①企業の景気動向や投資意欲を把握するため企業訪問を実施した。	H26.8~
	②工場緑化に関するアンケート調査を実施し、工場立地法に規定する緑地率等の規制緩和を実施した。	H26.9~
	③市北部地区の養鶏業を営む方を対象に意向調査を実施した。	H27.3~
平成27年度	①市東部地区の工業用地創出に向け、関係機関と協議した。	H27.4~
	②市北部地区の整備構想策定業務委託を専門業者に発注し、土地所有者に対する意向調査を実施した。	H27.7~
	③愛知県企業庁が市東部地区の開発を公表した。	H28.3
平成28年度	①市東部地区の工業用地の創出に向け、開発事業者である愛知県企業庁や土地改良区などの各種関係団体と造成工事の着手に向けた協議・調整を実施した。	H28.4~
	②市北部地区の工業用地の創出に向け、関係機関や進出希望企業と協議・調整を実施した。	H28.4~
	③市東部地区の開発計画に対する周知を図るため、地区説明会を開催した。	H28.5
	④市北部地区の開発計画に対する理解を得るため、土地所有者に対し説明会を開催した。	H28.12
	⑤企業と工場建設などの新たな設備投資に伴う協議・調整を行った。	H28.4~
	⑥奨励金及び補助金の交付申請の受付・審査・交付手続きを行った。	H28.4~
	⑦企業の新たな設備投資に対し、奨励対象の認定を行った。	H28.6
	⑧企業の再投資に対し、補助対象の認定を行った。	H28.8~
平成29年度	①愛知県企業庁と豊田町地区の造成工事の進捗に応じた協議・調整を実施した。また、地元に対して進捗状況に応じた情報発信を実施した。	H29.4~
	②愛知県企業庁が実施する豊田町地区に進出を希望する企業の公募に関する協議・手続きを実施した。	H29.4~
	③小池町地区の工業用地の創出に向け、関係機関や関係者と協議・調整を実施した。	H29.4~
	④企業と工場建設などの新たな設備投資に伴う協議・調整を行った。	H29.4~
	⑤奨励金及び補助金の交付申請の受付・審査・交付手続きを行った。	H29.5~
	⑥企業の新たな設備投資に対し、奨励対象の認定を行った。	H30.3~

基本目標Ⅲ 明日を生み出すエネルギー やる気を活かせるまちをつくらう

(2) 事業者・関係機関との連携を強化し、現場のニーズをひまえ、産業の活性化、雇用の安定に向けた取組みを進めます。		
該当アクションプラン H26~H29 がんばる事業者応援事業、地場産業振興事業、農業経営安定推進事業		
何を・どうした		いつ
平成26年度	①特産野菜の普及に向け、ジャンボ落花生の種を市内の農家に配布・栽培し、鬼みちまつりなどで販売した。	H26.5~
	②がんばる事業者応援事業において、企業の経営状況の把握、制度をPRするため企業訪問を実施した。	H26.8~
	③議員提案による瓦の利用促進を図るための条例である「みんなで三州瓦をひろめよう条例」を制定した。	H26.12
平成27年度	①公共建築物等三州瓦屋根工事奨励補助金により高浜港駅舎の新築駅舎に瓦が使われるよう名鉄と協議し、建設につなげた。	H27.4~
	②農地の多面的機能発揮促進事業として、地元子ども会・町内会と連携し高取みどり会が落花生植栽会を開催した。	H27.5
	③ふるさと名物応援宣言で三州瓦を応援した。	H27.9
平成28年度	①国などが実施されている各種補助制度の把握及び活用実績を調査し、「がんばる事業者応援事業」の当初の目的・一定の役割は終えたと判断したことから、制度の廃止を実施した。	H28.4~
	②補助金交付申請の受付・審査・交付手続きを行った。	H28.4~
	③市内瓦利用者に対する補助を行っている。	H28.4~
	④造園による瓦材活用を補助対象とした。	H28.4~
	⑤商工会主催三州瓦宣伝活動の協力をした。	H28.8~
	⑥落花生営農部会に愛知県農業改良普及課による植栽講習会の実施をした。	H28.4
	⑦地元子ども会・町内会との連携による高取みどり会主催の落花生植栽会を実施した。	H28.5
平成29年度	①JA あいち中央産直振興課による栽培方法の説明会の実施をした。	H29.4
	②地元子ども会・町内会との連携による高取みどり会主催の落花生植栽会を実施した。	H29.5
	③ジャンボ落花生加工品講習会の実施をした。	H29.10
	④JA あいち中央高浜地区婦人部でジャンボ落花生のアレンジ料理作りを実施した。	H29.10
	⑤農業まつりにおいて落花生販売促進をした。	H29.11
	⑥地域産業に関わる各種団体に対し、産業振興・地場製品の販路拡大などに対する補助金を交付した。	H29.4~
	⑦三州瓦の販路拡大及びPRのために開催された「窯業展」に関する費用の一部負担や三州瓦を使用した屋根工事の施主に対し補助金を交付した。	H29.4~
	⑧経済産業省の指定する伝統的工芸品に「三州鬼瓦」が指定された。	H29.11
(3) コミュニティ・ビジネスの創業や持続的な経営に向けた支援を行います。		
該当アクションプラン H26・27 コミュニティ・ビジネス創出支援事業 H28・29 地方創生加速化交付金事業		
何を・どうした		いつ
平成26年度	①地域においてコミュニティ・ビジネスを創業しようとする「チャレンジャー」の発掘を行った。	H26.4
	②チャレンジャーを応援団が志縁する「支援は志縁 志縁〇循環動く円卓会議」を開催した。	H26.11 H27.3
	③コミュニティ・ビジネスの創業に向け、チャレンジャーの特定非営利活動法人設立を支援した。	H26.11 H27.3

平成27年度	①地域においてコミュニティ・ビジネスを創業しようとするチャレンジャーの発掘に取り組んだ。	H27.5～
	②創業したチャレンジャーの不安解消支援（フォローアップ）を行った。	H27.11～
	③チャレンジャーの未来予想・理念形成の確認をした。	H27.12
平成28年度	①庁内プロジェクトチームの発足をした。	H28.4
	②高浜高校生1年生へのSBP（ソーシャル・ビジネス・プロジェクト）参加呼びかけをした。	H28.7
	③高校生によるSBP活動を実施した。	H28.8
	④高校生と市内鬼瓦事業者へのマッチングをした。	H28.8
	⑤コミュニティ・ビジネスフォーラムを実施した。 コミュニティ・ビジネスセミナーを実施した。	H28.6 H28.7
平成29年度	①チャレンジャーの活動に対するサポートをした。	H29.6～
	②創業し、活動中のチャレンジャーに対してのフォローアップサポートをした。	H29.6～
	③高校生によるSBP活動を実施した。	H29.4～
	④第2回全国高校生SBP交流フェア（全18団体出場）において、高浜高校SBPの活動が認められ全体の2位となる三重県知事賞を受賞した。	H29.8
<p>（4）自然・伝統文化・施設などの地域資源をつなぎ、市民・事業者・関係機関とともにまちの魅力を高め、賑わいの創出や交流人口の拡大に向けた取組みを行います。</p> <p>該当アクションプラン H26～H29 観光推進事業</p>		
何を・どうした		いつ
平成26年度	①観光案内所（ONIHouse）での特産物販売に対する支援を行った。	H26.4～ H27.3
	②観光案内所創造委員会に参加し、観光資源の発掘及び集客に向けた取組みを検討した。	H26.5～ H27.3
	③観光案内所（ONIHouse）での賑わい創出のため、毎月第1日曜日に開催したオニマルシェ及び市民マラソン大会と連携した出張オニマルシェ開催に対する支援を行った。	H26.5～ H27.3
平成27年度	①鬼みちまつりアンケートの実施（対象：来場者・出展者）をした。	H27.10 H28.2
	②B-1グランプリなど市外の高浜市PRイベントに参加し、高浜市をPRした。	H28.3
	③西三河広域観光協議会にてWebガイドによる周遊ルート作成システムを作成した。	H28.3
平成28年度	①鬼みちまつり実行委員会が実施する鬼みちまつりに対し、職員の人的支援や関係機関との調整を図った。	H28.10
	②西三河広域観光協議会にてWebガイドによる周遊ルートシステムが運用された。	H28.4～
	③B-1グランプリ中部地区大会にて高浜市をPRした。	H28.9
平成29年度	①春季、秋季の「鬼みちまつり」の開催にあたり、関係機関との連絡調整及び職員の人的支援を行った。	H29.10 H30.3
	②春の鬼みちまつりでミニB-1グランプリを同時開催し、前年の2倍となる約13,000人が訪れた。	H30.3
	③市内の観光PRを広域行政圏内（西三河広域観光協議会）から発信し圏域内の観光ガイドブックの作成とイベントを立ち上げた。	H30.3

Ⅲ. 課題と今後の取組みの方向性

課題	今後の取組みの方向性
<p>(1) 支援制度のPR等を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業や事業者の事業の活性化や雇用機会を創出するため、新たな設備投資を促す支援制度の周知を図るとともに、事業規模の拡大を促す必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな設備投資を促す支援制度をPRし、支援制度を活用する新たな企業や事業者を発掘する。 企業や事業者間の事業活動に関する接点・繋がりを支援する手法を検討する。
<p>(2) 地場産業の三州瓦の販売方法を検討する</p> <ul style="list-style-type: none"> 熊本地震など、震災の度に報道される瓦の風評被害の払しょくのための対応を検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 瓦の伝統性を生かした商品開発やブランド化の支援を行い、屋根瓦の優位性やデザイン性のPRをする。
<p>(3) 高校生SBP活動を推進する</p>	<ul style="list-style-type: none"> 西三河地区の主要産業である自動車産業にスポットライトを当て、伝統的地場産業である瓦を結びつけたキャラクター焼き(Sの絆焼き)をSBP活動を行っている他地域の高校をはじめとして全国的にPRすることで高浜の産業を広くPRするとともに、高校生の継続的な活動の維持のための組織体制の確立を図る。



後期基本計画「目標(6) 産業を活性化して、まちを元気にします」へのつながり	
こんなことに取り組みます！	平成30年度アクションプラン
農地とのバランスを考慮しつつ新たな工業用地を創出し、企業誘致を進めるとともに、既存企業の投資意欲を高める支援策を推進します。	No.19 企業誘致事業〔企業支援グループ〕 No.20 農業経営安定推進事業〔地域産業グループ〕
災害による風評被害の払しょくや伝統性を活かした商品開発、ブランド化など、地場産業である三州瓦の優位性やデザイン性をPRするため、「高浜市みんなで三州瓦をひろめよう条例」を推進します。	No.21 地場産業振興事業〔地域産業グループ〕
高浜高校SBP(ソーシャルビジネスプロジェクト)を支援し、高浜市の産業を全国的にPRするなど、ビジネス手法を用いた若い世代の育成支援をします。	No.22 カワラでつながるミライ事業 〔地域産業グループ〕
高浜市観光協会や関連団体が行うイベントや高浜市のPRに対し人的支援、活動支援をします。	No.23 観光推進事業〔地域産業グループ〕

Ⅳ. 第6次高浜市総合計画推進会議 コメント

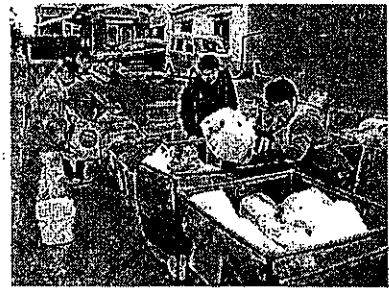
<ul style="list-style-type: none"> SBPについて高校生が出向いてイベントに参加し活動しているが、試験期間中などで出れない場合、中学生やまちづくり協議会などを活用して運用してもよいと思う。 企業誘致した後のことも考え、既存企業・事業主と新しい企業の仲介を行政に支援してほしい。誘致してから動いては時間のロスが出てくる。
--

MEMO



目標（7）

みんなでまちをきれいにします



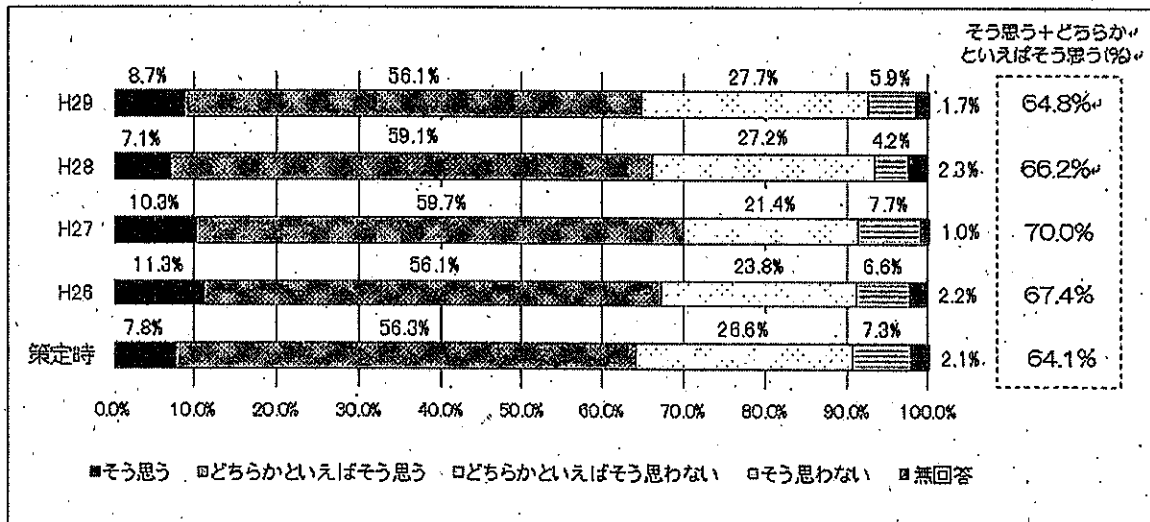
▲ごみの分別収集拠点

I. 目標と目標の達成状況

1. 目指す姿	
目標達成に向けての考え方	人類の共有財産である地球環境を守るため、一人ひとりが地球環境に対する意識を高め、地域・学校・事業者・関係機関と力を合わせて環境に配慮した取組みを実践し、環境の負荷が少ない、快適できれいなまちを、次世代に引き継ぎます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 資源化が進み、ごみの量が減っています。 ◇ ごみの散乱がなく、きれいで住みやすいまちになっています。 ◇ 環境に配慮して行動する市民、事業者が増えています。 ◇ 地球環境に対する意識が高まっています。

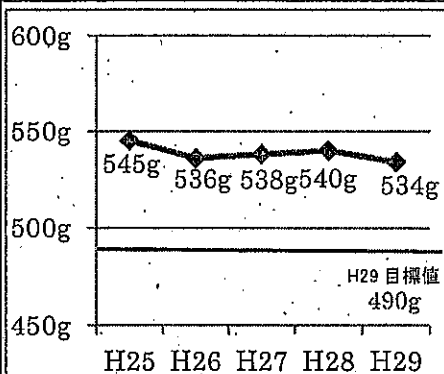
2. 市民意識調査結果

【設問】 みんなで環境美化・保全に取り組んでおり、きれいなまちだと思う。

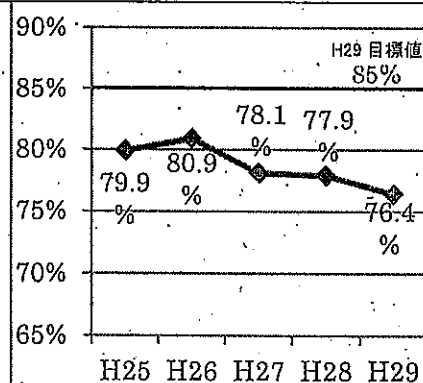


3. 「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

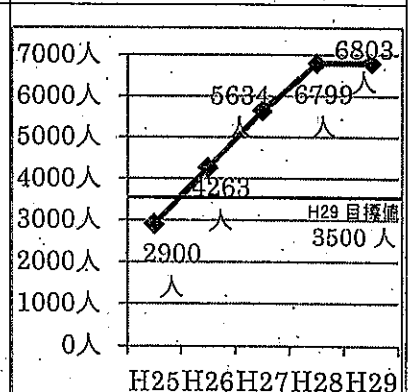
1) 1人1日あたりの家庭ごみ排出量



2) 日ごろから省資源や省エネなど環境に配慮した生活をしている人の割合



3) 環境美化推進員の人数



4. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する現状分析(要因・課題等)

- ・H25年度(基準値)から毎年、指標は上昇傾向であったが、H28年度実績値の減少に続き、H29年度の実績値も減少し、基準値(64.1%)を若干上回る64.8%であった。
- ・H28年度と比較し、「そう思う+どちらかといえばそう思う」の割合で、10歳代で、△29.5%の41.9%、50歳代で、△10.9%の59.8%が、実績値の減少に大きく影響したものと考えられる。
- ・指標1の「1人1日あたりの家庭ごみ排出量」は、策定時(545g)と比較し、11gの減少となった。ごみ減量化の目標達成のためには、可燃ごみ指定袋の無料配布の中止(有料化)を含め、市民、事業者のさらなる協力が必要となる。
- ・指標2の「日ごろから省資源や省エネなど環境に配慮した生活をしている人の割合」は、策定時(79.9%)と比較し、3.5%減少したが、76.4%と依然高い水準は確保している。しかし、H26年度の80.9%をピークに3年連続で減少しているため、省資源や省エネなどに配慮した生活の推進に対する市民の協力が必要である。
- ・指標3の「環境美化推進員」は、策定時(2,900人)と比較し、6,803人と大幅な増加となり、目標値を達成することができた。今後とも、子ども達や事業所に対する環境美化推進員の登録を推進する。

II. 目標達成のための主な取組み(「こんなことに取り組みます!」の実施内容)

(1)「高浜市みんなでまちをきれいにしよう条例」を推進します。		
該当アクションプラン H26~H29 みんなでまちをきれいにします事業		
何を どうした		いつ
平成26年度	①市民と行政による「生活環境問題研究会」を発足させた。	H26.6
	②生活環境問題研究会において分別便利帳を作成した。	H27.3
平成27年度	①環境政策に関する検討組織「生活環境問題研究会」を設置した。	H27.4~
	②雑草が繁茂している土地等の所有者に対し、適正管理するよう文書を送付した。	H27.4~
平成28年度	①高浜エコハウスで資源ごみ分別学習を開催した。	H28.4~
	②小学校と協力し、職員が講師となり環境学習等を実施した。	H28.7
	③生ごみ処理機の補助金を増額した。(上限2万円から上限3万円へ)	H28.10
平成29年度	①高浜エコハウスで資源ごみ分別学習を開催した。	H29.4~
	②環境政策に関する検討組織「生活環境問題研究会」と可燃ごみステーション及び分別収集拠点のマナー遵守状況の調査を実施した。	H29.7

(2)「高浜市ごみ処理基本計画」に基づき、紙ごみのリサイクルをはじめ、ごみの減量化に取り組みます。		
該当アクションプラン H26～H29 みんなでまちをきれいにします事業		
	何を・どうした	いつ
平成26年度	①高浜エコハウスで、粗大ごみの受付を開始した。	H26.5
	②資源化率向上のため、分別収集特別拠点を拡充した。	H26.5
平成27年度	①不燃物埋立場で埋立方式からリサイクル方式に変更した。	H27.4～
	②高浜エコハウスにおいて、資源ごみ分別学習を開催した。	H27.4～
	③町内会の協力を得ながら、資源ごみ分別収集を継続して実施した。	H27.4～
平成28年度	①高浜エコハウスで資源ごみ分別学習を開催した。	H28.4～
	②小学校と協力し、職員が講師となり環境学習等を実施した。	H28.7
	③生ごみ処理機の補助金を増額した。(上限2万円から上限3万円へ)	H28.10
平成29年度	①高浜エコハウスで資源ごみ分別学習を開催した。	H29.4～
	②小学校と協力し、職員が講師となり環境学習等を実施した。	H29.7
	③環境政策に関する検討組織「生活環境問題研究会」と可燃ごみステーション及び分別収集拠点のマナー遵守状況の調査を実施した。	H29.7
(3)地域・学校・事業者・関係機関と連携した環境美化活動、環境保全活動に取り組むこととし、不法投棄対策を積極的に進めます。		
該当アクションプラン H26～H29 みんなでまちをきれいにします事業		
	何を・どうした	いつ
平成26年度	①市内小中学校で体験型の環境学習の検討を開始した。	H26.6
	②高浜高校が新たに環境美化推進員に登録された。	H26.11
	③高取小学校が新たに環境美化推進員に登録された。	H26.12
平成27年度	①環境政策に関する検討組織「生活環境問題研究会」を設置した。	H27.4～
	②職員が講師となり、小学校で環境学習を実施した。	H27.10
	③子ども環境美化推進員の登録と活動支援を実施した。 (吉浜小学校、南中学校が、新たに環境美化推進員に登録)	H28.3
平成28年度	①高浜エコハウスで資源ごみ分別学習を開催した。	H28.4～
	②小学校と協力し、職員が講師となり環境学習等を実施した。	H28.7
	③生ごみ処理機の補助金を増額した。(上限2万円から上限3万円へ)	H28.10
平成29年度	①高浜エコハウスで資源ごみ分別学習を開催した。	H29.4～
	②小学校と協力し、職員が講師となり環境学習等を実施した。	H29.7
	③環境政策に関する検討組織「生活環境問題研究会」と可燃ごみステーション及び分別収集拠点のマナー遵守状況の調査を実施した。	H29.7

Ⅲ. 課題と今後の取組みの方向性

課題	今後の取組みの方向性
(1) 市民意識調査において、日ごろから省資源や省エネなど環境に配慮した生活をしている人の割合が3年連続で減少している	・環境政策に関する検討組織である「生活環境問題研究会」において、市民、事業者の「環境美化活動」に対する意識向上策を検討します。
(2) 1人1日あたりの家庭ごみ排出量が、近年530g～540gで推移し、目標値の490gを達成していない	・「生活環境問題研究会」において、市民、事業者の「ごみ減量化」に対する意識向上策や新たなごみ減量化の施策として、可燃ごみ指定袋の無料配布の中止（有料化）を検討します。
(3) 町内会と協力し、分別収集拠点の運営方法、拠点数、収集時間などを検討する必要がある	・町内会による分別収集拠点の運営方法や拠点数、収集時間などの検討に加え、町内会に対する支援策も検討します。



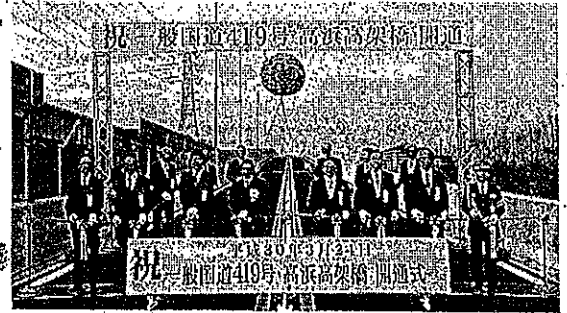
後期基本計画「目標(7) みんなでまちをきれいにします」へのつながり	
こんなことに取り組みます！	平成30年度アクションプラン
「高浜市みんなでまちをきれいにしよう条例」を推進し、環境美化活動を進めます。	No.24 みんなでまちをきれいにしよう事業 〔市民生活G〕
循環型社会の構築に向け、資源ごみのリサイクルを進め、ごみの減量化に取り組みます。	
地域・学校・事業者・関係機関と連携した環境保全活動に取り組みます。	

Ⅳ. 第6次高浜市総合計画推進会議 コメント

・可燃ごみ袋の無料配布の中止（有料化）など、制度・仕組みが変わることに関しては、丁寧な説明をお願いしたい。

目標 (8)

ハーモニーを奏でる快適な都市空間をつくります



▲一般国道419号 高浜高架橋 開通式の様子

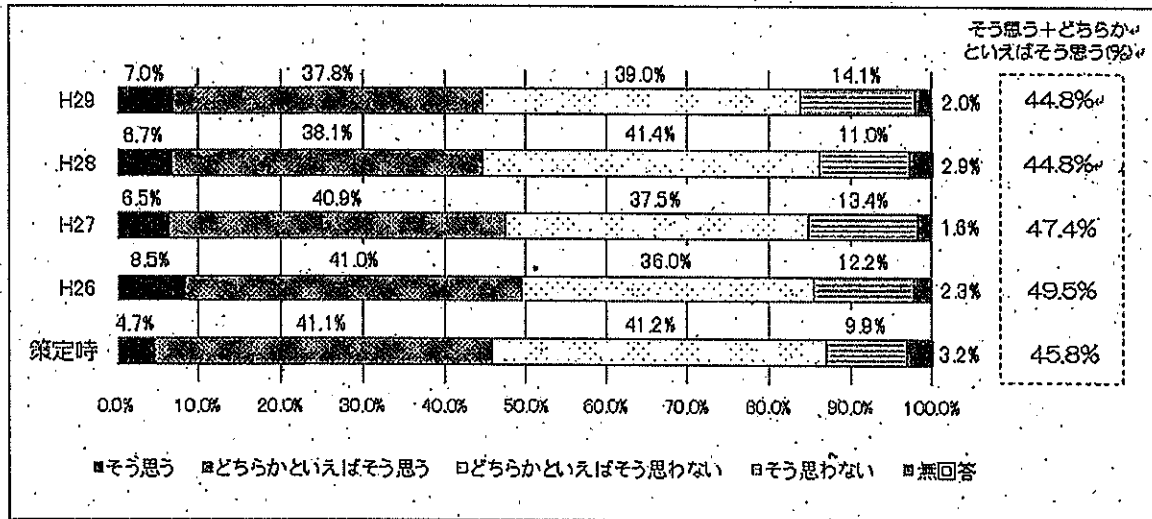
I. 目標と目標の達成状況

1. 目指す姿

目標達成に向けての考え方	住み続けたいと思える快適なまちをつくるために、地域の特性に応じた秩序ある土地利用を推進し、住環境、ライフライン、道路、景観・憩いの場など、都市を形成するそれぞれの要素を調和（ハーモニー）させていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 都市空間の調和が保たれ、快適に暮らせる住環境やライフラインの整備が進んでいます。 ◇ 誰もが日常生活において、スムーズに移動できる環境づくりが行われています。 ◇ 公園・緑地などが、やすらぎや愛着・誇りが感じられる憩いの場として親しまれ、笑顔と賑わいであふれています。

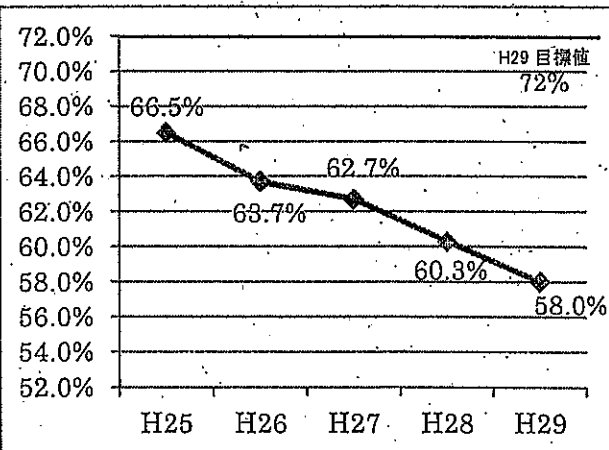
2. 市民意識調査結果

【設問】調和の取れた土地利用が図られ、安全・快適で移動しやすいまちだと思ふ。

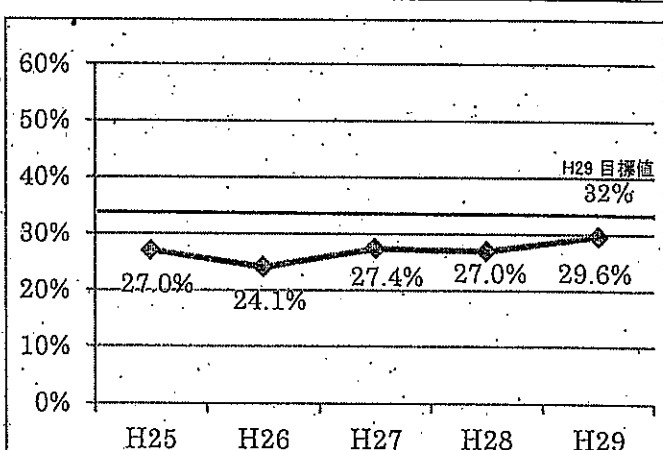


3. 「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

1) 暮らしやすい環境が形成されていると感じている人の割合



2) 公園・緑地、街路樹や水辺空間づくりに参加したことがある人の割合



4. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する現状分析(要因・課題等)

- ・市民意識調査結果は、策定時と比べ 1.0 ポイント減少しているが、前年からの変動はなかった。
- ・また、指標 1) は、策定時から連続して低下している。「安全・快適で移動しやすいまち」及び「暮らしやすい環境の形成」における公共インフラ等の整備については、中長期にわたるため短期間での効果が表れにくい、計画的かつ着実に進めて行くことが大切である。
- ・指標 2) は、前年から 2.6 ポイント増加し、策定時を上回る結果となったが、参加する方の高齢化が進んできていると考えられ、新たな担い手確保が課題である。「公園・緑地、街路樹や水辺空間づくりに参加したことがある人」を増やすためには、地道な活動・取組みにおいて時間軸を長くもち、地域のみなさんと連携しながら活動の輪を広げていくことが重要である。

II. 目標達成のための主な取組み(「こんなことに取り組みます!」の実施内容)

(1) 住環境やライフラインの整備など、都市空間の快適さや安全性、魅力を高める取組みを進めます。		
該当アクションプラン H26~H29 公共下水道事業(汚水)、水道事業		
何を・どうした		いつ
平成26年度	①配水管を耐震管に入れ替える工事を実施した。(新規埋設管、下水道工事区域等)	H26.4 ~H27.3
	②17.4haの区域で汚水管整備工事を実施した。	H26.7~ H27.3
	③国庫補助による、配水管布設替工事計画の策定を進めた。	H26.9
平成27年度	①「汚水処理整備に関するアクションプラン」を策定した。	H27.12
	②平成27年度工事予定区域内の汚水管整備工事を完了した。	H28.3
	③配水管を耐震管に入れ替える工事を完了した。	H28.3
平成28年度	①国庫補助金の交付申請手続きをした。	H28.4
	②昨年度の工事箇所における舗装復旧工事を発注した。	H28.6
	③平成29年度工事予定区域内の委託業務を発注した。	H28.6
平成29年度	①平成29年度工事予定区域内の汚水管整備工事を完了した。	H30.3
	②配水管を耐震管に入れ替える工事を完了した。	H30.3
	③配水場の老朽設備を更新した。	H30.3
(2) 安全・安心・便利に移動できるよう道路を整えるとともに、公共交通の利用も促進します。		
該当アクションプラン H26~H29 いきいき号循環事業、市道港線整備事業、道路点検・保全事業		
何を・どうした		いつ
平成26年度	①いきいき号において、市内5コース40便、刈谷市コース9便を運行した。	H26.4~ H27.3
	②市道港線の整備において、横浜橋南工区の権利者との交渉を行った。	H26.4~ H27.3
	③路面状態や道路付属物(照明灯)・橋梁の安全性等の点検を行い、次年度以降の舗装修繕計画を策定したほか、付属物のうち緊急性の高いものは前倒しの修繕を行った。	H26.6~ H27.3

基本目標Ⅲ 明日を生み出すエネルギー やる気を活かせるまちをつくろう

平成27年度	①いきいき号の平成27年度末利用者27,824人 対前年比 Δ6.9%	—
	②市道港線整備に伴い、横浜橋南工区の地権者と用地・物件補償の交渉を実施した。	H27.4~ H28.3
	③道路の各種工事（舗装補修、照明灯等の取替工事など）を行った。	H27.4~ H28.3
平成28年度	①運行指針に基づき、いきいき号を運行した。	通年
	②健康自生地との連携を図り、利便性の向上に努めた。	H28.6~
	③高浜市地域公共交通会議を開催し、市内コースのバス停と刈谷市コースと市内コースの乗り継ぎの利便性を一部改善した。	H28.10~
平成29年度	①高浜市地域公共交通会議を開催した。	H29.10~
	②市道港線整備に伴い、横浜橋南工区の地権者と用地・物件補償の交渉を実施した。	H29.4~ H30.3
	③幹線市道の舗装修繕工事を行った。	H29.7~ H29.10
(3) 公園・緑地、街路樹や水辺空間などを地域の財産としてとらえ、地域と連携しながら、特性を活かした憩いの場づくりを進めます。		
該当アクションプラン H26~H29 緑のあるまちづくり事業		
何を・どうした		いつ
平成26年度	①NPO団体等と連携を図り、公園・緑地・街路樹等の保全活動を実施した。	H26.4~ H27.3
	②（仮称）論地どんぐり公園整備について、まちづくりトーク&トーク並びにワークショップを実施し、地域住民との意見交換を行った。	H26.8 H26.11
	③（仮称）論地どんぐり公園第1期工事の繰越工事を竣工させた。	H26.9
平成27年度	①防災機能を備えた論地どんぐり公園の工事が完了し、供用開始が出来た。	H27.8
	②公園・緑地、街路樹や水辺保全に関するまち協やNPO団体等の行事に参加し、活動を支援した。	H27.4~ H28.3
	③愛・道路パートナーシップへの支援を行った。	H27.4~ H28.3
平成28年度	①公園施設長寿命化修繕計画の委託を契約し、打合せを実施し計画策定の検討をした。	~H29.3
	②まち協やNPO団体等の行事に参加し、活動を支援した。	随時
	③愛道路パートナーシップへの支援をした。	随時
平成29年度	①公園施設長寿命化修繕計画の結果を受け必要な修繕等を行った。	随時
	②まち協やNPO団体等の行事に参加し、活動を支援した。	随時
	③愛道路パートナーシップへの支援をした。	随時

Ⅲ. 課題と今後の取組みの方向性

課題	今後の取組みの方向性
(1) 高度成長期や、その後の区画整理事業において、道路・ライフライン等の公共インフラを整備しており、その施設が耐用年数を迎え、損傷箇所等が増加することが想定される	・公共インフラの調査点検による既存施設の劣化状況を把握した補修等を行い、長寿命化を図ることで安心して安全な住生活を支えていく。
(2) 水道施設近代化事業の一環として、災害時でも安心して水が供給できるようにする	・重要給水施設(災害時避難所)へ水道を供給する配水管を耐震管に布設替えを進めていく。
(3) 長寿命化を図るための財源確保が重要であり、補助金等を要望しているが、交付額が減少しており、事業進捗が遅延する恐れがある	・公共インフラの維持管理に要する経費に対し、市の財政負担を軽減するため、 <u>国・県等へ、長寿命化に対する経費に対し、交付金・補助金等の十分な財政支援を継続的に行うよう要望活動を行っていく。</u>



後期基本計画「目標(8) 自然と都市機能が調和した都市空間をつくります」へのつながり	
こんなことに取り組みます!	平成30年度アクションプラン
道路や橋りょう等の計画的な維持管理のため、調査・点検を進め、改良や修繕を行います。	No.25 道路施設(舗装・橋梁等)保全事業 〔都市整備G〕
災害時でも水が安定的に供給できるよう、災害時避難所へ水道を供給する配水管を耐震管に布設替えるなど、耐震化を進めます。	No.26 水道事業〔上下水道G〕
公園施設長寿命化計画に則って計画的に公園施設の修繕を進めるとともに、地域の関係団体と協働で「緑のあるまちづくり」を進めます。	No.27 緑のあるまちづくり事業〔都市整備G〕

Ⅳ. 第6次高浜市総合計画推進会議 コメント

・配水管の強度を上げると同時に、給水車の活用を進めていただきたい。

目標（9）

安全・安心が実感できる地域づくりを進めます



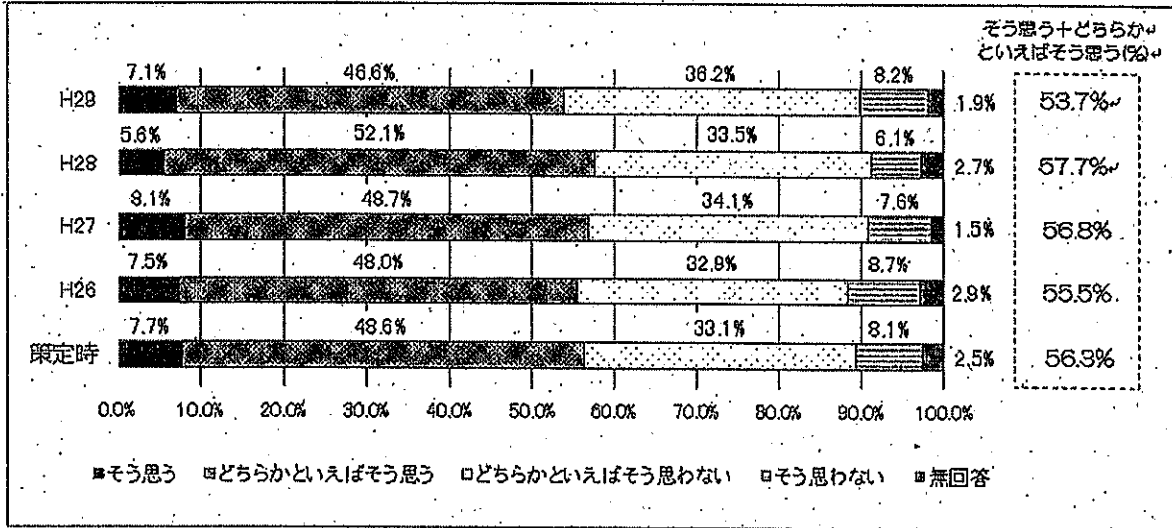
▲総合防災訓練のようす

I. 目標と目標の達成状況

1. 目指す姿	
目標達成に向けての考え方	近い将来に発生が予測される大震災に加え、集中豪雨・台風・火災などの災害、身近に起きる犯罪・交通事故から生命を守り、被害を最小限に食い止めるため、市民・地域・事業者・関係機関・行政がそれぞれの役割を果たしつつ、地域ぐるみで安全・安心に暮らせる環境を築いていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 市民一人ひとりの防犯や防災に対する意識が高まっています。 ◇ 「自助」「共助」「公助」を基本とした防災・減災対策、防犯・交通安全対策など、安全・安心を守る活動が地域ぐるみで行われています。 ◇ 誰もが安全で安心だと感じながら暮らしています。

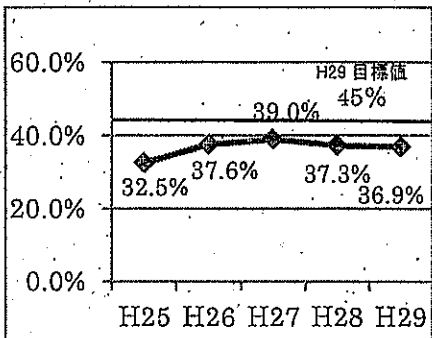
2. 市民意識調査結果

【設問】安全・安心が実感できる防災・防犯対策が進められているまちだと思う。

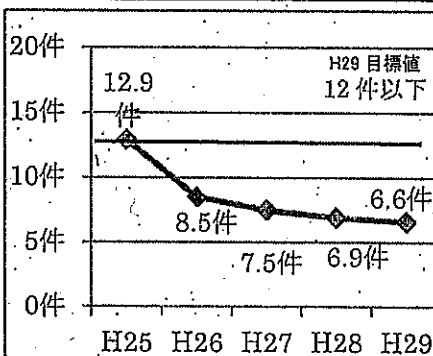


3. 「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

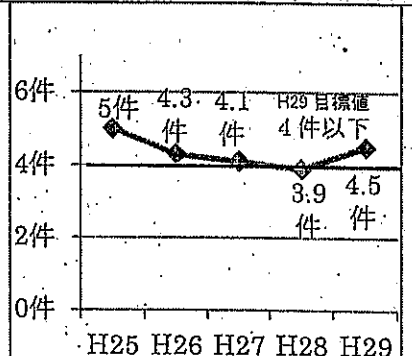
1) 自分自身が災害（地震や風水害など）への備えができていると思う人の割合



2) 人口1,000人あたり犯罪発生件数



3) 人口1,000人あたり交通事故発生件数



4. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する現状分析（要因・課題等）

- ・指標1) 策定時（H25）より年々増加していたが、H28は対前年△1.7%、H29は対前年△0.4%と2年連続で減少となった。今回の市民意識調査では、特に10歳代の低下が著しく、前回より23.9%のマイナスとなった。各小学校では、6年生を中心に防災学習に取り組んでおり、また、約5年前より、市民団体が中心となり、小学4年生から中学3年生までを対象に「子ども防災リーダー養成講座」及び「中学生防災・減災アカデミー」を実施し、多くの児童・生徒が受講している。今回の結果を受け、これらの機会を活用するなど、災害に対する備えの重要性について、改めて周知を図っていく必要があると考える。また、この地域では、長年、大規模な災害が発生していないことも、市民全体の防災意識の低下に繋がっているのではないかと分析している。
- ・指標2) 件数は年々減少しており、地域住民や関係団体等と連携した防犯活動や市民一人ひとりの防犯意識の高まりによるものと分析している。
- ・指標3) 策定時（H25）より年々減少していたが、H29は対前年0.6%の増加となった。H29は、特に四輪車両相互による幹線道路等での軽傷事故（わき見運転や前方不注意による追突など）が増えた。H29は、市内で大規模な道路拡幅工事等が実施されておられ、車線縮小による渋滞なども発生しやすかったことから、件数の増加に繋がったのではないかと分析している。交通安全啓発活動の時間帯や実施場所を工夫するなど、引き続き、警察や関係団体と連携を図りながら、取り組みを進めていく必要があると考える。

II. 目標達成のための主な取組み（「こんなことに取り組みます！」の実施内容）

(1) 市民・地域・事業者・関係機関と連携した総合的・機動的な防災体制を構築し、減災対策や実践を想定した取組みを強化します。		
該当アクションプラン H26・H27 防災ネットワーク推進事業、公共下水道事業（雨水） H28・H29 防災ネットワーク推進事業		
	何を・どうした	いつ
平成26年度	①防災ネットきずこう会や市総合防災訓練を開催し、地域防災ネットワークの構築を進めた。	H26.6～
	②雨水管整備工事を実施した。	H26.7～ H27.1
	③町内会に、防災資機材（救助工作セット、リアカー等）を配布した。	H27.1
平成27年度	①町内会やまちづくり協議会等と協働し、市総合防災訓練を開催した。	H27.9
	②外国人の人口割合が高い本市の特性を鑑み、外国人向け防災訓練を開催した。	H27.11
	③公共下水道事業（雨水）において、「社会資本総合整備計画Ⅱ」の策定を行った。	H28.2
平成28年度	①町内会やまちづくり協議会等と協働し、市総合防災訓練を実施した。港小学区は、津波避難訓練（高浜小学校に避難）を実施した。	H28.9
	②外国人が多く居住する地域を会場に、外国人向け防災訓練を開催した。	H29.2
	③西三河防災減災連携研究会で協議した「西三河誘導標識等設置指針（JIS規格に基づくマーク表示など）」に基づき、小中学校の避難所看板を更新した。	H29.2
平成29年度	①企業訪問、沿岸部の企業との連絡体制の構築、事業者を対象とした防災講演会、ワークショップ等を実施し、事業者との連携強化を図った。	H29.7～
	②町内会やまちづくり協議会等と協働し、市総合防災訓練を開催した。	H29.9
	③外国人が多く居住する地域を会場に、外国人向け防災訓練を開催した。	H30.3

基本目標Ⅲ 明日を生み出すエネルギー やる気を活かせるまちをつくろう

(2) 防災教育や防犯講話などを通じて、「自らの安全は自ら守る(自助)」、「地域の安全は地域で守る(共助)」という意識を高める取組みを強化します。		
該当アクションプラン H26~H29 防災ネットワーク推進事業 防犯対策推進事業		
何を・どうした		いつ
平成26年度	①子どもを含んだ防災教育の推進を図った。	H26.7~
	②愛知県が公表した最新の被害想定を踏まえ、東海地震・東南海地震・南海地震被害予測調査説明会を開催した。	H26.11
	③警察署と連携し、防犯講話、防犯教室を開催した。	随時
平成27年度	①「愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査」に基づき、高浜市で想定される地震による災害の様相と地震に対する備え等を記した「高浜市地震防災マップ」を作成し、全世帯に配布した。	H27.5
	②地域防災リーダー養成講座(基礎編・避難所編)を開催した。	H27.7~
	③関東・東北豪雨の被災地で災害支援の中心的役割を果たしたNPO法人の代表による市民防災講演会を開催した。	H28.3
平成28年度	①退官自衛官を「防災専門官」として採用し、地域住民や市民団体等を対象に、防災講話等を開催した。	H28.4~
	②地域防災リーダー養成講座(基礎編・避難所運営編)を開催した。	H28.6~
	③避難行動チェックシートを配布し、自宅から避難所までの避難行動の周知、市総合防災訓練での活用等を図った。	H28.8
平成29年度	①地域防災リーダー養成講座(基礎編・避難所編)の開催に加え、受講者等のスキルアップを図るため、新たにフォローアップ編(家具固定編)を開催した。	H29.7~
	②ゴミ袋の配布時に、町内会未加入者に対し『「自助」「共助」の取り組みをお願いします!』のチラシを配布し、町内会への加入、隣近所や地域で顔の見える関係づくりなどを呼びかけた。	H29.7
	③地域の意見を聞きながら、小学校区別の避難行動チェックシートを作成し、8月15日号広報と一緒に配布し、自宅から避難所までの避難行動の周知、市総合防災訓練での活用等を図った。	H29.8
(3) 「高浜市みんなて犯罪のないまちにしよう条例」をふまえて、地域・警察・関係機関と連携し、事件・事故の未然防止活動を推進します。		
該当アクションプラン H26~H29 防犯対策推進事業		
何を・どうした		いつ
平成26年度	①地域等との協働により、防犯活動、青色回転灯車による防犯パトロール、夜間パトロール、深夜パトロールを実施した。	H26.4~
	②防犯灯などの防犯施設の維持・管理を実施した。	H26.4~
	③防犯ネットワーク会議の設置に向けて、自主防犯活動に取り組んでいる団体(まちづくり協議会、町内会、市民団体、事業者等)に参加を呼び掛けた。	H27.2~3
平成27年度	①青色防犯灯パトロール(地域団体、委託業者)を実施した。	H27.4~
	②防犯灯などの防犯施設の維持・管理を実施した。	H27.4~
	③犯罪発生を抑止を目的として、市内3駅に防犯カメラを設置した。また、ライオンスクラブからの寄贈により、高浜ふれあいプラザにも防犯カメラを1台設置した。	H28.2
平成28年度	①年金支給日に併せた特殊詐欺撲滅キャンペーンや多くの市民が利用する駅周辺、スーパー等での啓発活動を実施した。	H28.4~
	②青色防犯パトロール(地域団体、委託業者)を実施した。	H28.4~
	③防犯灯などの防犯施設の維持・管理を実施した。	H28.4~
平成29年度	①地域や警察に加え、小学生による防犯少年団「こっこキッズ」とも連携を図り、戸別訪問による防犯診断や駅前での啓発活動等を実施した。	H29.4~
	②青色防犯パトロール(地域団体(昼間・夜間)、委託業者(深夜))など、パトロール活動を実施した。	H29.4~
	③警察や防犯ネットワーク会議委員等の意見を聞きながら、通学路でもある主要交差点付近に、防犯カメラ4台を設置した。	H30.2

(4) 市民一人ひとり、特に高齢者や子どもの交通事故防止に向けた取組みを進めます。		
該当アクションプラン H26～H29 交通安全啓発事業		
	何を・どうした	いつ
平成26年度	①交通安全活動、一斉大監視活動、街頭啓発活動などを実施した。	H26.4～
	②高齢者と子どもに対する交通安全教室を行った。	H26.4～
	③民生委員へ高齢者宅訪問時に交通安全を依頼、交通安全教室を開催した。	随時
平成27年度	①交通安全活動（一斉大監視、街頭啓発など）を実施した。	H27.4～
	②イベント時に交通安全誘導を実施した。	H27.4～
	③交通安全教室、交通安全講習会を開催した。	H27.4～
平成28年度	①交通安全活動（一斉大監視、街頭啓発など）を実施した。	H28.4～
	②イベント時に交通安全誘導を実施した。	H28.4～
	③交通安全教室、交通安全講習会を実施した。	H28.4～
平成29年度	①交通安全活動（一斉大監視、街頭啓発など）を実施した。	H29.4～
	②交通安全教室、交通安全講習会を開催した。	H29.4～
	③高浜市交通安全協会が主体となり、高齢者運転免許証自主返納に対する支援制度を開始した。（商店振興会加盟店で使える「すまいるカード」2千円分を贈呈）	H29.5～

Ⅲ. 課題と今後の取組みの方向性

課題	今後の取組みの方向性
<p><u>(1) 「自助」「共助」に基づく地域防災力等を強化する</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害は大規模化・多様化しており、今後30年以内の発生確率が70～80%程度と言われている「南海トラフ巨大地震」や、予測が難しいと言われている「ゲリラ豪雨」等が発生すると、社会経済の停滞など、この地域が受ける影響は大きい。また、災害の規模が大きいほど、行政が担う「公助」には限界があり、災害リスクを軽減するためにも、平常時から「自助」「共助」に基づく防災・減災力の強化を図ることが重要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震災害や風水害等への備え、災害発生時の迅速な避難行動及び災害復旧など、「公助」に基づく対策に加え、市民や事業者と役割分担などを図る中で「自助」・「共助」を意識した防災・減災対策に取り組む。
<p><u>(2) 犯罪発生件数の減少対策を強化する</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・被害が増大している特殊詐欺など、高齢者に対する防犯対策が不可欠である。 ・愛知県で11年連続ワーストワンが続いている住宅侵入盗対策に取り組んでいく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会、まちづくり協議会、警察等で構成される「高浜市防犯ネットワーク会議」を軸に、関係者が連携して各種の防犯対策に取り組む。

<p>(3) 交通事故発生件数の減少対策を強化する</p> <p>・近年、高齢者が加害者となる交通事故や自転車による死亡事故が全国各地で発生しており、高齢者や自転車運転者に対するマナー向上など、各種の交通安全対策を推進する必要がある。</p>	<p>・碧南警察、高浜市交通安全協会、碧南高浜交通安全運転管理者協議会など、関係機関と連携して各種の交通安全対策に取り組む。</p>
---	--



後期基本計画「目標(9) 安全・安心が実感できる地域づくりを進めます」へのつながり	
こんなことに取り組みます！	平成30年度アクションプラン
<p>自然災害に対し、市民・地域・事業者・関係機関と「自助」「共助」「公助」の考えに基づく役割分担と相互の連携強化を図り、実践的な防災・減災活動に取り組みます。</p>	<p>No.28 防災ネットワーク推進事業〔都市防災G〕</p>
<p>「高浜市みんなで犯罪のないまちにしよう条例」に基づき、地域・警察等で構成する高浜市防犯ネットワーク会議を軸に、犯罪抑止活動を推進します。</p>	<p>No.29 防犯対策推進事業〔都市防災G〕</p>
<p>地域・警察・事業者・関係機関と連携し、特に自転車の運転マナーの向上、高齢者や子どもの交通事故防止に向けた取組みなど、交通安全対策を進めます。</p>	<p>No.30 交通安全啓発事業〔都市防災G〕</p>

Ⅳ. 第6次高浜市総合計画推進会議 コメント

<p>・仕事などで留守宅が多いため、防災情報入手手段である防災メールや災害アプリは必須である。防災訓練などとあわせてアピールし、その場で入れてもらう、入れてあげる活動をしてみてはいかがか。</p>
--

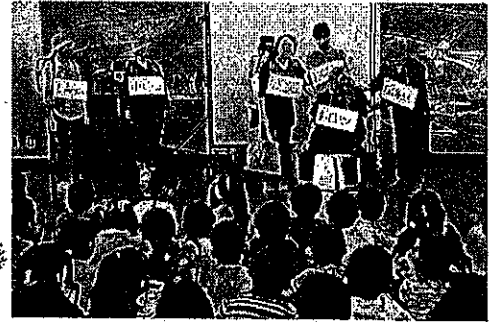
基本目標

4



目標 (10)

一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます



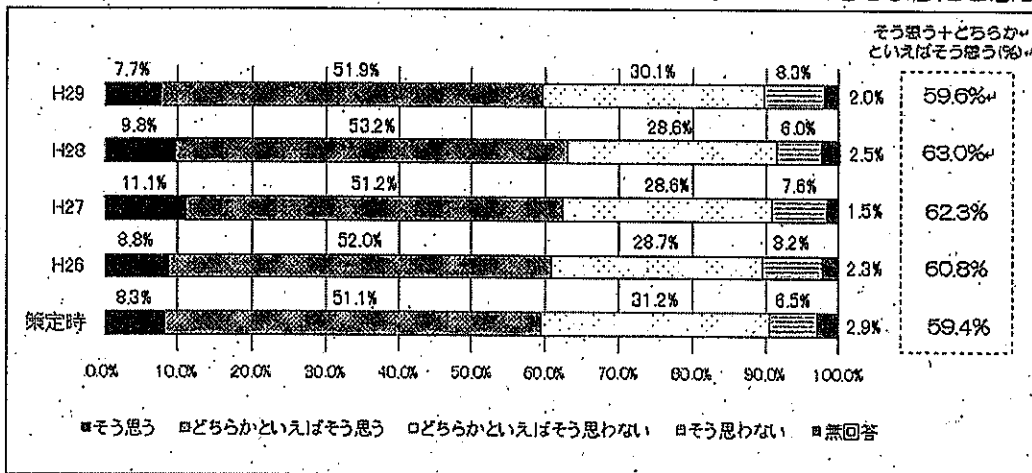
▲認知症サポーター養成講座のようす

I. 目標と目標の達成状況

1. 目指す姿	
目標達成に向けての考え方	少子高齢化や核家族化の進展により、地域の中で孤立する人が増えています。また、今後、認知症高齢者の増大や障がい者の生活の場の不足といった課題の発生が予測されます。地域・事業者・関係機関と連携して、誰もが住み慣れた地域で、その人らしく、安心して、いきいきと暮らせる環境を築いていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 多くの市民の方が、地域での支え合いの担い手として活躍しています。 ◇ 障がい者の社会参加の機会が増え、地域住民とのふれあいの光景が見られます。 ◇ 子どもから高齢者まで、障がい者も含め、誰もが認められ、地域でともに支え合い、その人らしく、いきいきとした生活を送っています。 ◇ 支援を必要とする人に対して、ニーズに応じた適切な相談支援やサービス提供が実施されています。

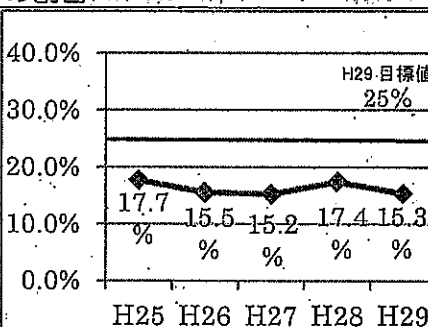
2. 市民意識調査結果

【設問】一人ひとりが認め合い、高齢者や障がい者などがいきいき暮らすことができるまちだと思う。

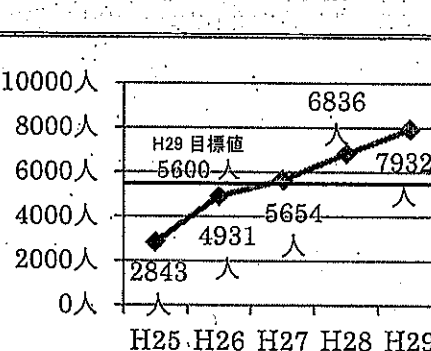


3. 「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

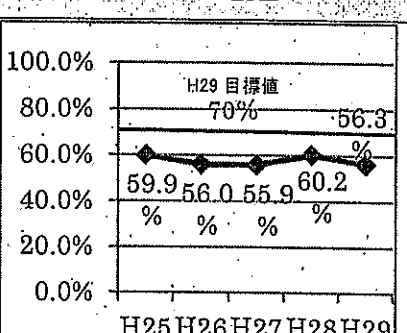
1) 地域福祉に関するボランティア活動に参加したことがある人の割合



2) 認知症サポーターの人数



3) 地域包括支援センターを知っている人の割合



4. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する現状分析(要因・課題等)

- ・毎年度上昇してきた「市民意識調査」の結果が、平成29年度は平成28年度の60.3%から3.4ポイント減少した。
- ・平成29年度「みんなで目指すまちづくり指標」の「地域福祉に関するボランティアに参加したことがある人の割合」が平成28年度の17.4%から2.1ポイントの減少した。引き続き、地域の中でのボランティアを始めとした「共助」の取り組みが求められている。
- ・平成29年度「みんなで目指すまちづくり指標」の「地域包括支援センターを知っている割合」が平成28年度の60.2%から3.9ポイントの減少した。困りごとを抱えている人が早い段階から支援につながるよう、福祉の総合相談窓口である地域包括支援センターをより多くの人に知っていただく必要がある。
- ・この結果を踏まえ、後期においても、地域福祉を支える人材育成や相談支援の充実を図り、目標達成に努めていく。

II. 目標達成のための主な取り組み(「こんなことに取り組みます!」の実施内容)

(1) 地域福祉に対する理解を広め、困りごとを抱える方の支援などを行うボランティアの発掘・養成や、継続的に活動できる場を創出します。

該当アクションプラン H26 認知症サポーター養成事業、地域の「つながり・支え合い」応援事業
H27 認知症サポーター養成事業、高齢者等地域見守りネットワーク事業
H28・H29 認知症サポーター養成事業

	何を・どうした	いつ
平成26年度	①認知症サポーター養成研修を実施した。(市内企業、吉浜公民館文化祭において、また、健康づくり推進委員、高浜高校福祉科の生徒などを対象)	H26.5~
	②「見守りネットワーク委員会」を立ち上げ、行方不明高齢者捜索模擬訓練を吉浜小学校区で実施した。	H27.1~3
平成27年度	①認知症サポーター養成研修を実施した。(市内企業、吉浜公民館文化祭、市内小学校、高浜高校健康づくり推進委員会 等)	H27.5~
	②メール配信システムの説明会、サポーター登録のお願い及び広報による周知・協力要請を行った。	H27.7~ H28.3
平成28年度	①キャラバンメイト連絡協議会開催、認知症サポーターを養成するための具体的な計画、今後の進め方について協議した。	H28.6
	②認知症サポーター養成研修を実施した。(吉浜公民館祭、高浜高校、刈谷豊田総合病院高浜分院)	H28.8~10
平成29年度	①認知症サポーター養成研修を実施した。(市内小学校、高浜高校、高浜消防署 等)	H29.6~
	②わくわくフェスティバルにブースを出展し、キャラバンメイトの活動を紹介するとともに、認知症について周知を図った。	H29.11
	③若年性認知症に対する理解を深めるため、講演会を開催した。	H29.12

(2) 障がい者が地域の中で交流できる場や活動機会を創出します。

該当アクションプラン H26~H29 障がい者の地域生活応援事業

	何を・どうした	いつ
平成26年度	①「ポッチャ普及委員会」を立ち上げ、「たかはまポッチャ大会」を実施した。	H26.8~ H27.2
	②「たかはまはたらコフォーラム」の開催、市内障害福祉サービス事業所見学ツアーを実施した。	H27.1

基本目標Ⅳ いつも笑顔で健やかに つながり 100倍 ひろげよう

平成27年度	①市内NPO法人がいきいき広場で、放課後支援をはじめとした障がい児を含む子どもの居場所事業をスタートした。	H27.5
	②障害者地域自立支援協議会において、「高浜市移動支援事業ガイドライン」を作成した。	H27.10
平成28年度	①障害者地域自立支援協議会に人財部会を設置し、居場所などにおける新たな担い手の確保・育成について検討した。また、生活支援部会を設置し、居場所や見守り・日常生活支援などのサービスについて検討した。	H28.8～ H29.1
	②就労支援会議の部会として就労支援部会を設置し、高浜市の就労支援の現状から地域のニーズを把握し、ニーズに対して必要なことを企画・実施した。	H28.4～ H29.2
	③雇用モデル検討チームを設置し、高浜市商工会加盟の企業で、障がい者雇用のモデルケースを作る検討をした。	H28.6～ H29.1
平成29年度	①障害者地域自立支援協議会に人財部会と防災部会を設置し、人材育成と居場所づくり及び震災時に安心して避難所生活を送ることができるように検討した。	H29.7～ H30.2
	②高浜市手をつなぐ育成会の主催で、シンポジウムを開催し、障がいに関する理解を深めた。	H29.10
	③福祉実践教室でポッチャの普及を行うとともに、ポッチャ競技大会を開催した。	H29.7～ H30.3
(3) 判断能力が不十分な人の権利や生活を守るため、権利擁護センターを設置し、適切な相談・支援が行える体制を整えます。		
該当アクションプラン H26・H27 権利擁護推進事業		
何を：どうした		いつ
平成26年度	①高浜市権利擁護支援センター設置・運営を開始し、各相談窓口の法律的専門相談、スーパーバイズ体制を構築した。	H26.10～
	②権利擁護の一つのツールである「成年後見制度」のフォーラムを市民約100名の参加を得て実施、「成年後見制度」の普及啓発を行った(社協委託)。	H27.3
平成27年度	①専門相談を実施した。	通年
	②権利擁護フォーラム「後見人に学ぶ!」を開催した。	H28.3
	※平成26年10月に当初の目的である高浜市権利擁護支援センター設置が完了した。	
(4) こども発達センターを充実し、子どもとその家族をより確かな形で支えます。		
該当アクションプラン H26～H29 こども発達センター運営事業		
何を：どうした		いつ
平成26年度	①3専門職及び発達専門相談員による専門相談及び支援を実施するとともに、学校専門家チームと連携した3専門職による支援を行った。	H26.4
	②小学校区単位での5歳児健診と日本福祉大との協働による健診の検証を行った。	H26.4
平成27年度	①3専門職及び発達専門相談員による専門相談及び支援を行った。	H27.4
	②小学校区単位での5歳児健診と日本福祉大との協働による健診の検証を行った。	H27.4
平成28年度	①3専門職による相談支援を継続して行った。	H28.4
	②小児科医によるケース検討会を実施した。	H28.4
	③専門家チームとして幼稚園・保育園・小学校に加え、中学校への巡回指導を実施した。	H28.7～ H29.2
平成29年度	①3専門職による相談支援を継続して行った。	H29.4
	②ケース検討会を定期的に行い、支援者間の連携を図った。	H29.4
	③専門職の連携を図るため、支援者向けガイドブックを作成した。	H30.3

(5) 育児・介護・健康・生活困窮など、不安を抱えた方への総合的な相談支援体制を整えます。		
該当アクションプラン H26 生活困窮者自立支援事業、高浜版地域包括支援センター充実事業 H27~H29 生活困窮者自立支援事業		
何を・どうした		いつ
平成26年度	①生活困窮に関するリスク要因等の調査分析を行い、その結果を報告書として取りまとめた。	H26.4~ H27.3
	②生活困窮世帯における就職困難者や子どもに向けた支援策を検討し、事業内容等を決定した。	H26.9~ H27.3
	③複合的なニーズ保有ケースを権利擁護支援センター専門相談に諮り、問題解決を図った。	H26.11~
平成27年度	①子ども健全育成支援員を配置し、新たに子ども・若者への相談支援を実施した。	H27.4
	②中学生を対象とした子どもの学習等支援事業を新たに実施した。	H27.7
平成28年 平成29年度	①高校中退防止の取組を新たに実施した。	H28.4
	②こども食堂支援基金を設置し、広く寄付を募った。	H28.4
	③こども貧困対策会議を設置し、開催した。	H28.6
平成29年 平成30年度	①こども貧困対策会議を開催し、課題解決のための方策を検討した。	H29.5・H29.12
	②ハローワーク職員による巡回職業相談の周知を図るとともに、刈谷ハローワークに生活困窮者相談支援のパンフレットを設置した。	H29.4~

Ⅲ. 課題と今後の取組みの方向性

課題	今後の取組みの方向性
(1) 相談支援の充実が求められている ・困りごとを抱え支援を必要とする人に、早期かつ包括的な相談支援を行う必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 生活困窮者の就労相談支援を強化する。 妊娠・出産・子育てから高齢者まで全世代にわたる相談支援を実現する。
(2) 介護人材など地域福祉を支える人が不足している ・介護人材や福祉人材などの不足が予測される中、人材の確保・育成について計画的に取り組む必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 介護職の魅力をもPRし、潜在的な介護人材を発掘する。 福祉現場における中核的な人材を育成する。
(3) 福祉サービスや地域の支え合いの充実が必要とされている ・ケアを必要とする人のニーズに応じた福祉サービスを充実する必要がある。 ・災害発生時における避難行動要支援者の支援体制の充実を図る必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者の地域生活支援拠点のあり方を検討する。 避難行動要支援者名簿を活用した防災訓練、見守りなど共助の取り組みを進め、有事に備える。



後期基本計画「目標(10)一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます」へのつながり	
こんなことに取り組みます！	平成30年度アクションプラン
生活困窮、介護、障がい、育児など、支援が必要な人に対し、早期かつ包括的な相談支援を行い、各々の事情に応じた支援につなげます。	No.31 生活困窮者自立支援事業〔地域福祉G〕
その人に合った暮らしを実現するため、地域の実情に応じて、福祉サービスや地域の支え合いの充実を図ります。	No.32 避難行動要支援者支援事業〔地域福祉G〕 No.33 障がい者の地域生活応援事業 〔地域福祉G、介護保険・障がいG〕
福祉サービスやふだんの生活を支えるための多様な人材を養成します。	No.34 介護人材確保・育成等事業 〔介護保険・障がいG、福祉まるごと相談G〕

Ⅳ. 第6次高浜市総合計画推進会議 コメント

<ul style="list-style-type: none"> 子ども食堂支援や学習支援、キャリア支援を行うにあたって、教える側の育成や発掘を行う必要がある。

目標（11）

一人ひとりの元気と健康づくりを応援します



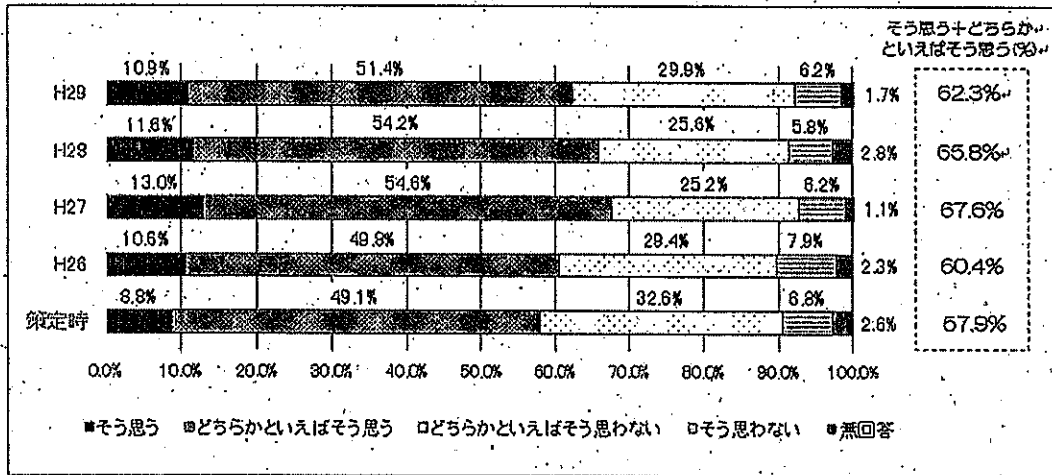
▲健康自生地フェスタのようすとホコタッチ

I. 目標と目標の達成状況

1. 目指す姿	
目標達成に向けての考え方	健やかで心豊かに生活していくためには、何よりも健康であることが大切です。一人ひとりが健康の大切さを自覚し、日々、健康づくりを意識した生活を送れるよう、個人の健康を支援するための環境づくりを進めていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 一人ひとりが自身の健康状況を把握し、健康づくり活動に積極的に参加しています。 ◇ 医療、介護、予防、生活支援の連携体制（地域包括ケア）が構築されています。 ◇ 誰もが住み慣れた地域や家庭で健康に暮らしています。 ◇ 健康づくりに取り組む人と応援する人が増加しています。

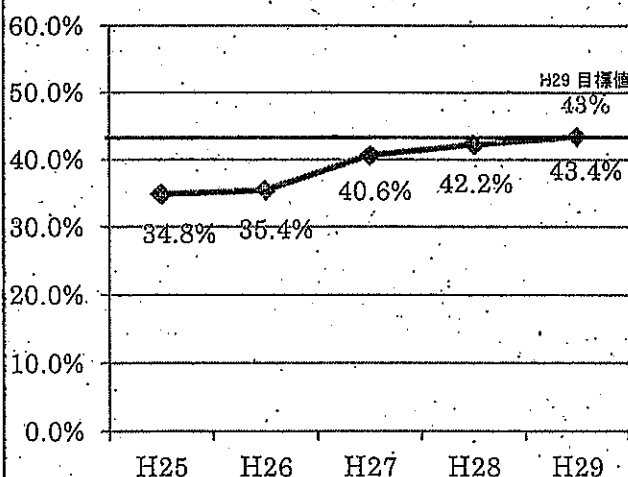
2. 市民意識調査結果

【設問】一人ひとりの元気と健康づくりを応援しているまちだと思う。

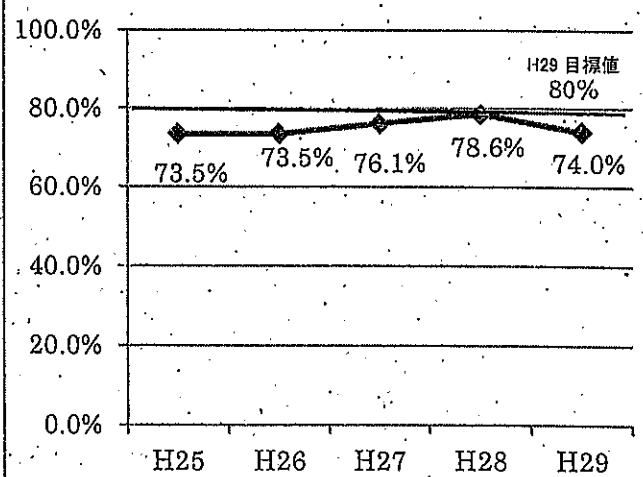


3. 「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

1) 日常的に運動やスポーツを行っている人の割合



2) かかりつけ医を持っている人の割合



4. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する現状分析（要因・課題等）

- ・指標1は、「健康自生地」や「いきいき健康マイレージ」といった外出を促して、アクティブな生活を送るための取組みの実施や、「マシンスタジオ」での認知症予防に効果的な教室の開催など、楽しく身体を動かしたり、健康づくり活動に取り組んだり、興味を持ってもらえるよう工夫してきた結果であると考えられる。
- ・指標2は、地域医療ネットワークをより多くの市民に知っていただくため、啓発パンフレットなどの配布に取り組んだ結果、高齢者には浸透してきている。今後は、生活習慣病に罹患する危険が高くなる40～60代へ、予防の取組みも含めた啓発が必要である。
- ・市民意識調査では、年代が上がるにつれて高くなる傾向があることから、若い世代の健康意識を高め、健康づくりに取り組んでもらえるような啓発活動が必要である。

II. 目標達成のための主な取組み（「こんなことに取り組みます！」の実施内容）

（1）高齢者の閉じこもり予防、外出の機会となる居場所づくりと、担い手としての活躍の場を創出する生涯現役のまちづくりを進めます。

該当アクションプラン H26～H29 生涯現役のまちづくり事業

	何を・どうした	いつ
平成26年度	①自宅に閉じこもりがちな高齢者が、自らの意思で出かけたくなるような居場所である「健康自生地」を、街中に新たに26か所創出した（H26年度末63か所）。また、1日限定の健康自生地として、商店振興会との連携による「健康自生地バスツアー」などを新たに実施した。	H26.4～ H27.3
	②健康自生地に関する情報発信（「でいでーる」発刊やメールマガジンの配信、専用ホームページ「たかはま元気deねっと」の運用）を行った。	H26.4～ H27.3
	③各健康自生地のより効果的な運営方法や全般的な課題解決策について検討する生涯現役のまちづくり実行委員会を開催した。	H26.4～ H27.3
平成27年度	①健康自生地が集まる「健康自生地フェスタ」を開催した。	H27.8
	②健康自生地を巡る「健康自生地ウォーキングツアー（吉浜地区）」と「健康自生地バスツアー（高浜商店振興会と共催）」を開催した。	H27.11
	③健康自生地スタンプラリーを実施した。（第4シーズン）	H27.12～
平成28年度	①健康自生地が集まる「健康自生地フェスタ」を開催した。	H28.8
	②でいでーるに健康自生地マップを掲載した。	H28.9
	③ホコタッチを使い、健康自生地へ出かけたくなる仕組みを考えた。	H28.4～9
平成29年度	①健康自生地の盛り上げイベントとして「健康自生地フェスタ」「健康自生地ウォーキングツアー」を実施した。	H29.8、11
	②「でいでーる」で健康自生地を巡るモデルコースを紹介した。	H29.7、 H29.12
	③ホコタッチを活用し、健康自生地訪問ポイント付与及び粗品交換を実施した。	H29.4～

(2) 今後、増加が予測される認知症に対応するため早期発見、早期支援を重点的に行う初期集中支援体制を構築します。		
該当アクションプラン H26~H29 認知症早期発見事業		
何を・どうした		いつ
平成26年度	①初期アセスメントとして、基本チェックリストによる認知機能の評価分析を行った。	H26.8
	②国立長寿医療研究センターと連携して、機能健診「脳とからだの健康チェック2014」を実施した。	H26.11
	③「認知症予防スタッフマニュアル」を完成させた。	H27.3
平成27年度	①認知症予防プロジェクトを毎月開催した。	H27.5~
	②認知症予防講演会を実施した。	H27.8
	③機能健診「脳とからだの健康チェック2015」を実施した。	H27.9~
平成28年度	①機能健診「脳とからだの健康チェック」を実施した。	H28.4~6
	②「脳とからだの健康チェック」結果説明会を開催した。	H28.4~7
	③「脳とからだの健康チェック」未受診者と新規対象者向けの追加健診を実施した。	H29.2
平成29年度	①「脳とからだの健康チェック」受診者で、認知症予防活動が必要と判定された方の内、希望者を対象とした「コグニライフ教室」を実施した。	H29.4~9
	②「コグニライフ教室」で得られたデータの分析を行った。	H30.3
	③「ホコタッチの達人認定証授与式」を開催した。	H30.3
(3) 運動機能や認知機能など市民一人ひとりのライフステージやニーズに応じた多様な健康づくり、介護予防や認知症予防のプログラムを構築します。		
該当アクションプラン H26~H28 健康づくり応援事業		
何を・どうした		いつ
平成26年度	①いきいき広場マシンスタジオを運営した。	H26.4~ H27.3
	②いきいき健康マイレージ健康づくり応援ポイントを実施した。 (登録者数 H26年度末 1,004人)	H26.4~ H27.3
	③いきいき健康マイレージ事業運営委員会を開催した。	H27.2
平成27年度	①若年層の健康づくりを目的とした「ズンバ」を始めた。	H27.4
	②いきいき健康マイレージ健康づくり応援ポイントを実施した。 (登録者数 H27年度末 1,135人)	H27.4~
	③いきいき健康マイレージ事業運営委員会を開催した。	H27.9
平成28年度	①いきいき健康マイレージ健康づくり応援ポイントを実施した。 (登録者数 H29.2末 1,188人)	H28.4~
	②認知症予防に効果的な「コグニサイズ教室」を始めた。	H28.5
	③マシンスタジオの器具のリニューアルを実施した。	H28.7
平成29年度	①いきいき広場マシンスタジオで、各種教室やトレーニング機器を使用した健康づくり・介護予防活動を実施した。	H29.4~
	②いきいき健康マイレージ健康づくり応援ポイントを実施した。 (登録者数 H30.3末 1,259人)	H29.4~9
	③あいち健康マイレージ事業との協働事業「たかはま健康チャレンジ事業」を開始した。	H29.4

(4) 多様な医療ニーズに対応するため、かかりつけ医と病院の病診連携の促進により地域医療を充実します。		
該当アクションプラン H26～H29 地域医療振興事業		
何を・どうした		いつ
平成26年度	①医科・歯科休日当番医の実施と市民へのPRを行った。	H26.4～
	②病院群輪番制による2次医療救急体制を確保した。	H26.4～
	③定住自立圏共生ビジョンに基づき地域医療ネットワークの運用を行った。	H26.4～
平成27年度	①医科・歯科休日当番医の実施と市民へのPRを行った。	H27.4～
	②病院群輪番制による2次救急医療体制の確保を行った。	H27.4～
	③地域医療ネットワークを知っていただくため啓発を行った「上手なお医者さんのかかり方」パンフレットを配布した。	H28.2
平成28年度	①医科・歯科休日当番医の実施と市民へのPRを行った。	H28.4～
	②病院群輪番制による2次医療救急体制を確保した。	H28.4～
	③定住自立圏共生ビジョンに基づき地域医療ネットワークの運用を行った。	H28.4～
平成29年度	①医科・歯科休日当番医の実施と市民へのPRを行った。	H29.4～
	②病院群輪番制による2次医療救急体制を確保した。	H29.4～
	③定住自立圏共生ビジョンに基づいた地域医療ネットワークのシステム更新を行った。	H30.3

Ⅲ. 課題と今後の取組みの方向性

課題	今後の取組みの方向性
<p>(1) 高齢者の居場所及び生きがいづくりを充実する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「健康自生地」の認定が始まって4年が経過したことから、数だけでなく質の向上を図る必要がある。 ・年齢が上がったり、体が少し弱ってきたりした方でも、通い続けられる地域の居場所を増やしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認定後1年以上経過した健康自生地の再審査に加え、担い手や利用者向けのアンケートの実施、健康自生地スタンプラリーの参加状況の分析などから、実態調査や課題解決策の検討を行う。
<p>(2) 若い世代の健康づくり活動を促進する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで「健康自生地」や「いきいき健康マイレージ」など、高齢者向けの健康づくり活動を充実してきたが、若い世代は、仕事や子育てなどに追われ、自身の健康状態の確認や健康づくりのための取組みなどは後回しになりがちである。 ・高齢になってからの疾病や介護、認知症等のリスクを下げるためにも、若い頃から健康意識を高め、良い生活習慣を送っていただくきっかけづくりが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者に限定しない健康づくり応援制度を実施する。 ・若い世代へ情報が届くような発信方法を検討し、実施する。

<p>(3) 認知症予防に効果的な活動の分析と地域で実践する仕組みをつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> より多くの方に認知症予防の取組みに関心を持っていただくための情報発信と、活動できる場所や仕組みが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> どのような活動を実践することが、認知症予防に効果があるのかを検証する（効果測定）とともに、効果的な活動を広くPRする。 認知症予防に効果のある活動をさまざまな地域で実施し、多くの市民に参加してもらえるような仕組みを構築する。
--	---



後期基本計画「目標（11）一人ひとりの元気と健康づくりを応援します」へのつながり	
こんなことに取り組みます！	平成 30 年度アクションプラン
高齢者の居場所である「健康自生地」を応援するとともに、担い手としての活躍の場を創出します	No.36 生涯現役のまちづくり事業〔健康推進G〕
生涯をとおして健康を意識し、生活の質を高めるための健康づくり活動を応援します	No.35 健康づくり応援事業〔健康推進G〕
疾病を早期に発見し、適切な治療が受けられる「かかりつけ医」を持つよう働きかけるとともに、地域医療と介護の連携を推進します	No.37 在宅医療・介護連携推進事業 〔福祉まるごと相談G〕 No.38 地域医療振興事業〔健康推進G〕

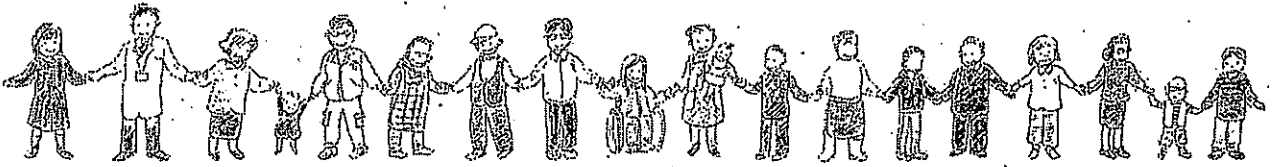
Ⅳ. 第 6 次高浜市総合計画推進会議 コメント

<ul style="list-style-type: none"> ホコタッチを 50 代などでも使えるようにすると、若い世代の健康づくり活動の促進につながると思う。

- ・現状把握・要因分析をしっかりとまとめていただきたい。
また、現状を測定するための調査結果を使うときに、結果調査・行動調査・意識調査を分けて考えることが重要である。結果調査が出た時には手遅れになっている場合もある。予防的に行動調査で見た方がいいのか、さらに予防的に・投資的に意識調査の段階で把握して、事を起こした方がいいのかという3つの段階あるということを考えて対策を講じていただきたい。
- ・みんなで目指すまちづくり指標だけが現状を図るツールではない。ほかのツールも駆使して現状分析をしていただきたい。
- ・国から全自治体に課題解決の要請がある法定受託事務は、現状把握しなくても実施しなければいけない。自治体主体で課題解決を行う場合は、類似団体との比較、近隣自治体との比較などから解き起こさないと現状が見えない。
今後、課題の設定を行ううえでは、この2つを分けて考えていくと良い。

MEMO



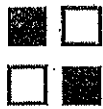


4

おわりに

市民との協働による基本計画【中期】の
進行管理を後期につなげていくために





(1) 基本計画【中期】の進行管理体制

■ 総合計画推進会議の役割

〔所掌事務〕 (「第6次高浜市総合計画推進会議設置規則」より)

- 1) 総合計画の進行管理に関する事項
- 2) その他総合計画の推進に関する事項

→毎年度の取組みを振り返り、総合計画に掲げる目標達成に向けて効果的な取組みが行われているかを委員と一緒に点検・確認し、より有効な手段等について建設的な意見をいただく。

具体的には・・・

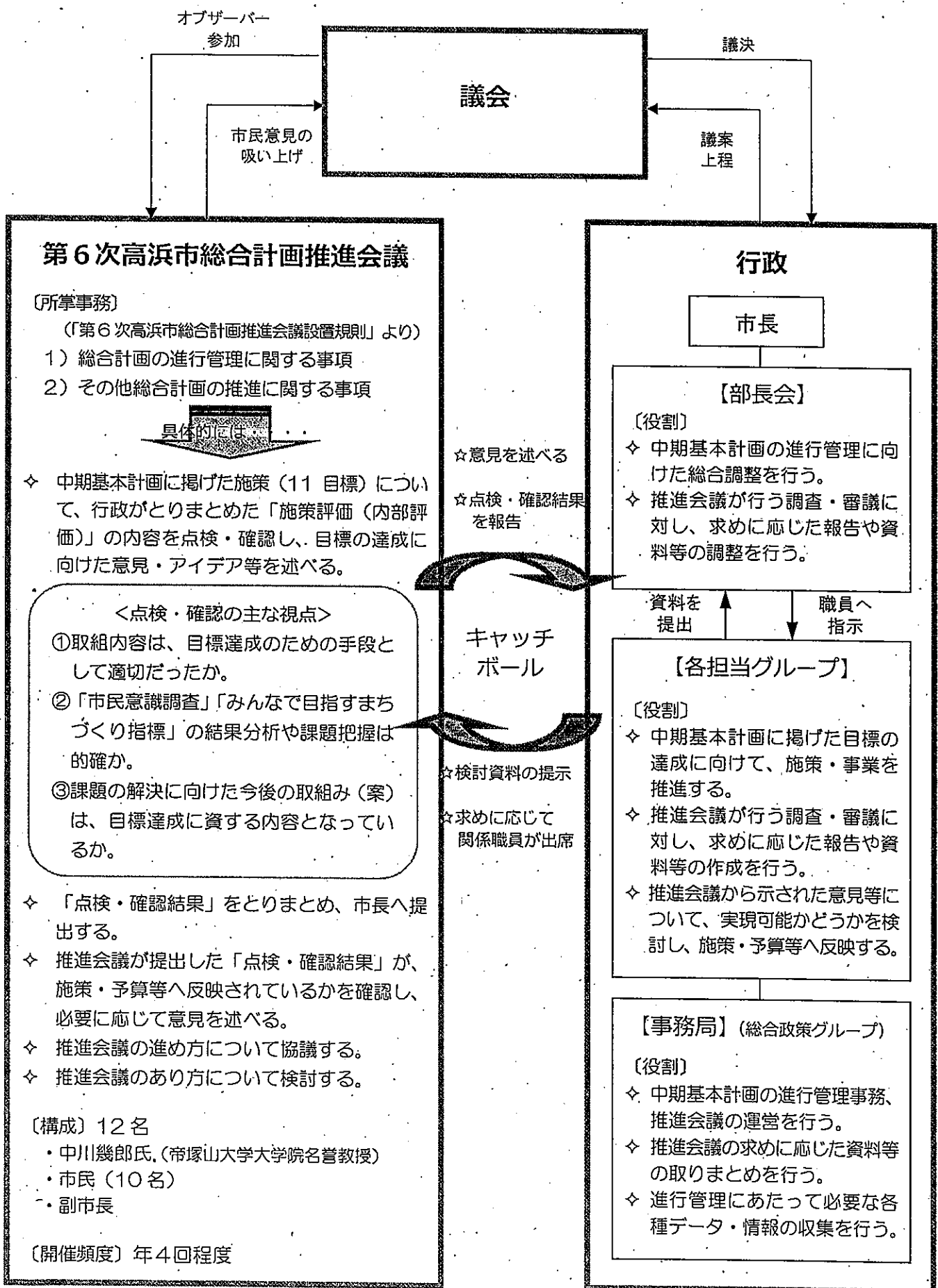
- ・「アクションプラン」や「部長の実行宣言」など年度初めに行政から発行される資料
 - ・市民意識調査など現状把握施策
- などの資料を参考にしながら、行政がまとめた施策評価（内部評価）シートを基に、前年度の取組みから見えてきた成果・課題、その成果・課題を踏まえた今後の取組み内容や方向性について、行政から説明し、委員から提言をいただく形で進行管理を進めてきた。

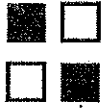
〔開催回数等〕

	開催回数	傍聴者数
平成27年度	7回	43名
平成28年度	6回	16名
平成29年度	4回	7名
平成30年度	3回	16名
合計	20回	82名



第6次高浜市総合計画 基本計画【中期】進行管理体制





(2) 行政による

「総合計画推進会議」4年間の振り返り

【中期の推進会議の成果】

①総合計画を市政経営の中心に据え、市民とともに進行管理を行った

- ・総合計画進捗管理の仕組みも前期と合わせ7年目になり、適正に運用できている。計画行政が評価を繰り返しながら修正を加え、現場ではそれを加工・改良していくといったPDCAサイクルが定着してきた。

②取り組みの実行性・成果を重視することができた

- ・市の仕事について、“いくらお金をかけたのか”といったことだけではなく、“地域や市民にとって、どれだけの成果が得られたのか”といった視点に立ち、指標などを分析しながら、成果を重視した市政運営を目指すことができた。
- ・基本計画に掲げる施策（11目標）について様々な観点から点検・確認し、推進会議でとりまとめた市民目線の意見・アイデアを、アクションプランや実行中の事業等に反映することにより、よりよい行政サービスにつなげることができた。

③責任感・緊張感をもって行政活動を行うことができた

- ・各担当部署の部長・グループリーダー等が出席し、市民委員の提言に対して行政の考え方・対応の発表を行うことにより、行政活動に一定の緊張感を保つことができた。
- ・施策を実施していくうえで、今後の取り組みと方向性を明記することで、責任を持って実施していくという姿勢がより高まった。

④市民委員とのキャッチボールで職員力の強化につながった

- ・学識経験者・企業経営者・地域団体代表者・NPO関係者など多分野に精通した市民委員からのチェックが入ることで、わかりやすい資料の作り方や施策アイデアの向上など政策形成能力が高まった。
- ・取組内容・成果、今後の課題・方向性、改善のアイデア等について、行政としての想いや質問に対する回答を市民の前でしっかりと述べる機会を持つことによって、コミュニケーション能力・職員力も高まった。

【後期の推進会議に向けての課題】

①議論を行う環境づくり（発言しやすい会議運営など）の工夫を！

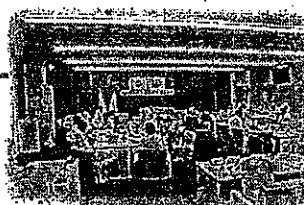
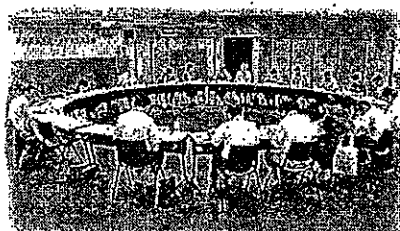
- ・円卓状のレイアウトでは委員一人ひとり発言がしにくく、思っていることを言えない場面もあった。
- ・1つの目標に行政からの説明とそれに対する質問・回答があるため時間に余裕がない。
- ・「市民とともに進行管理を行う」という精神を引き継いでいくため、後期の推進会議の運営にあたっては、前期基本計画策定時の市民会議のような部会に分かれての議論や中期基本計画時の基本目標ごとにテーブルに分かれ、ワールドカフェ形式を用いた進行管理を取り入れるなど、濃密な議論を行うことができる工夫が必要である。

②施策実行の考え方について

- ・全ての取組みを「自助」「共助」「公助」の観点で仕分けが必要。総合計画の目標達成に向けては、行政の力だけでは難しく、市民・地域の力が不可欠である。市民・地域の役割、行政の役割をふまえて、今後の見直し・改善（案）を示していくと、市民も理解しやすい。
- ・要因分析の結果見えてきた課題の順位付けを行い、優先度の高いものから対策を講じていく必要がある。
- ・「みんなで目指すまちづくり指標」の目標値と現状値の大幅な乖離がみられた場合や達成済みの課題が出た場合、課題を弾力的にとらえ、推進会議での議論を経て、施策の進捗や情勢の変化などにより必要に応じて目標値を見直すことも必要になってくる（毎年度同じ分析にならないように）。

③資料づくりは不断の見直しを！きめ細かい情報発信の強化も！

- ・毎年度、同じような記載があるため、混乱することがある。いつまでにやるという期限をもっと明確にするとよい。
- ・市はこんな施策に取り組んでいるということを、あらゆる媒体を活用しながら外に向けても広く周知するなど、きめ細かい情報発信を！



■ 事務局 ■

高浜市役所 企画部 総合政策グループ

TEL0566-52-1111 (内線 365) FAX0566-52-1110

E-mail seisaku@city.takahama.lg.jp

URL <http://www.city.takahama.lg.jp>